

参考資料 1 ボーリング柱状図・廃棄物観察結果

W1地点

ボーリング柱状図

調査名 KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託




ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	W1	調査位置	秋田県能代市浅内地内			北緯	40° 9' 34.5"				
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課			調査期間	令和1年7月22日～1年7月22日			東経	140° 2' 26.1"		
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話(06-6206-6091)		主任技師	和田卓也		現場代理人	橋本和茂	コア鑑定者	橋本和茂	ボーリング責任者	潮田俊英
孔口標高	50.06m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北0° 270° 西 180° 東 90° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	エコプローブ		ハンマー 落下用具
総掘進長	10.00m	度		向		エンジン			ポンプ		

標尺	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	記述	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験						原位位置試験		試料採取		室内試験(掘進月日)	
									深	10cmごとの打撃回数			N値	深	試験名および結果	深	試料採取番号	採取方法		
										度	0	10								20
(m)	(m)	(m)	(m)	図	調	度	事	(m)	(m)	10	20	30	(cm)	(m)	(m)	(m)	号	法	(m)	
1							全体的に臭気有り(腐敗臭) 所々木片混入 深は約30～40mm程の亜角・亜円礫主体 maxφ100mm程度 GL-0.80m付近、ビニール片混入 GL-1.40m付近、ひしゃげた金属片×2、厚み1mm未満、油状物質付着無し、 腐敗臭 GL-1.50m付近、プラスチック片混入 GL-1.90m付近、ビニールゴミ混入 GL-2.30m付近、板状金属片×2、厚み1mm程度、上ト土砂から溶剤臭有り GL-3.50～4.40m付近、ひしゃげた金属片(光沢有り)×多数、厚み1mm未満、 含水高く腐敗臭	7/22 3/22												
2					暗褐		腐敗物混じり土砂										2.30 2.30	◎	腐敗物分析	
3																				
4	15.76	4.30	4.30																	
5					砂混じり粘土	暗褐～黄	不均質で軟弱な粘性土 砂は中砂程度 粘性小 臭気有り(腐敗臭)													
6	41.06	1.70	6.00																	
7	42.86	1.20	7.20		砂混じりシルト	黄褐	全体にシルト分混入する 砂は中～粗砂主体、含水小 GL-6.00～6.50m付近までやや粘性強い													
8																				
9					砂	黄褐～暗黄褐	中～粗砂主体 含水小													
10	40.06	2.80	10.00																	7/22

地点名	W1		
地盤高	EL.+50.06m		
地山境界	GL.-7.20m (EL.+42.86m)		
掘削中水位	GL.-3.72m (EL.+46.34m)		
コア写真	0		1
	1		2
	2		3
	3		4
	4		5
	5		6
	6		7
	7		8
	8		9
	9		10
	10		11
	11		12
	12		13
	13		14
	14		15
埋立物の比率	盛土：約0%、木くず主体廃棄物：約0%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約100%		
廃棄物分析	GL.-2.20～-2.30m (EL.+47.86～47.76m) 埋立判定基準超過項目：トリクロエチレン 0.39mg/L		
特記事項	【金属片】 ① GL.-1.40m、ひしゃげた金属片×2、厚み1mm未満、油状物質付着無し、腐敗臭 ② GL.-2.30m、板状金属片×2、厚み1mm程度、上下土砂から溶剤臭有り ③ GL.-3.50～-4.40、ひしゃげた金属片（光沢有り）×多数、厚み1mm未満、含水高く腐敗臭		



- 【凡 例】
- 廃棄物分析
 - 埋立判定基準超過
 - 埋立判定基準を満足
 - 金属片
 - 板状 ○ ひしゃげた
 - その他
 - 油状物質等

ボーリング柱状図





調 査 名 KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シート No

ボーリング名	W2		調査位置		秋山県能代市浅内地内						北緯	40° 9' 34.5"			
発注機関	秋山県生活環境部環境整備課				調査期間		令和 1 年 7 月 24 日 ~ 1 年 7 月 24 日				東経	140° 2' 26.4"			
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話 (06-6206-6091)		主任技師		和田 卓也		現代場 代理人	橋本 和茂		コ鑑定者	橋本 和茂		ボーリング 責任者	潮田 俊英	
孔口標高	50.22m	角			方			地盤勾配	鉛直 1:100		使用機種	試錐機		エコプローブ	
総掘進長	9.00m	度			向			エンジン	ハンマー 落下用具		ポンプ				

[illegible]

地点名	W2		
地盤高	EL.+50.22m		
地山境界	GL.-6.60m (EL.+43.62m)		
掘削中水位	GL.-8.74m (EL.+41.48m)		
コア写真	0		1
	1		2
	2		3
	3		4
	4		5
	5		6
	6		7
	7		8
	8		9
	9		10
	10		11
	11		12
	12		13
	13		14
	14		15
埋立物の比率	盛土：約0%、木くず主体廃棄物：約0%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約100%		
廃棄物分析	GL.-2.00～-2.20m (EL.+48.22～48.02m) 埋立判定基準超過項目：無し		
特記事項	<p>【金属片】</p> <p>① GL.-2.20m、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、油状物質不着無し、やや油臭</p> <p>② GL.-3.30～-3.60m、ひしゃげた細長い金属片×多数、油状物質付着無し（W1地点のGL.-3.50～4.40mで確認された金属片と類似）</p> <p>【油状物質等】</p> <p>③ GL.-1.00～-2.00のスライムに油状物質が付着、油臭有り ただし、ボーリングコアには上記油状物質が認められなかった</p>		



GL.-1.00～-2.00mのスライム※は含水が高く、附着した油状物質は低粘性であった。ボーリング地点近傍に存在していた油状物質は地表面から浸透した雨水と混ざり合い、比較的含水が高い状態で廃棄物層内に存在していた可能性が高く、これが掘削時の振動により液状化が生じ、ボーリング地点に流下した可能性が考えられる。

※ ボーリング調査においては、コアチューブでコア試料を採取後、孔壁崩壊防止のため一回り大きい径のケーシングを用いて掘孔する。掘孔の際に生じた掘くずは、コア試料として用いず、この掘くずのことを一般的にスライムと呼ぶ。

【凡 例】
● 廃棄物分析
□ 埋立判定基準超過
□ 埋立判定基準を満足
● 金属片
○ 板状 ○ ひしゃげた
● その他
○ 油状物質等

W3地点

ボーリング柱状図

調査名 KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	W 3		調査位置		秋山県能代市浅内地内						北緯40° 9' 34.3"			
発注機関	秋山県生活環境部環境整備課					調査期間		令和 1年 7月 23日 ~ 1年 7月 23日			東経140° 2' 26.3"			
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話(06 6206 6091)		主任技師		和田 卓也		現代場 代理人		橋本 和茂 コ鑑定者		橋本 和茂 ボーリング 責任者		潮田 俊英	
孔口標高	50.22m	角		方	北 0°		使用 試験機	エコプローブ			ハンマー 落下用具			
総掘進長	9.00m	度		向	西 180° 東 90° 南 0°		鉛直 90°						エンジン	ポンプ

標高 凡	層厚 高	深度 厚	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	記述	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試験番号	採取方法	室内試験 (月)	掘進口				
									深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値										
										0	10	20												
									10	20	30	40	50	60										
1				赤栗物混じり土砂	暗褐色		礫はφ20~30mmの単円・単角礫主体 所々φ50mm程度の礫点在 maxφ100mm程度 マトリックスは粗砂 ほぼ全体に本片混入 GI-0.40~0.50m付近、土砂にタール状物質わずかに付着、油臭有り GI-1.40~1.50m付近、土砂にタール状物質わずかに付着、油臭有り GI-1.70m付近、ビニール片混入 GI-1.90m付近、金属片混入 粘性小、均質で少し硬質な粘土、含水小 φ20~30mm程度の単円・単角礫主体 maxφ50mm程度 GI-2.80m付近、段ボール混入	Wa2																
2	47.92	2.30							2.30															
3	47.53	0.40							2.70															
4	47.22	0.30	3.00	粘土	暗褐色																			
5				砂混じり粘土	暗褐色																			
6				砂混じり粘土	黄褐色																			
7	42.72	4.50	7.50																					
8				シルト混じり砂	黄褐色																			
9	41.22	1.50	9.00																					

地点名	W3		
地盤高	EL.+50.22m		
地山境界	GL.-7.00m (EL.+43.22m)		
掘削中水位	GL.-8.74m (EL.+41.48m)		
コア写真	0		1
	1		2
	2		3
	3		4
	4		5
	5		6
	6		7
	7		8
	8		9
	9		10
	10		11
	11		12
	12		13
	13		14
	14		15
	埋立物の比率	盛土：約0%、木くず主体廃棄物：約0%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約100%	
廃棄物分析	GL.-1.30～-1.60m (EL.+48.92～48.62m) 埋立判定基準超過項目：無し		
特記事項	【金属片】 無し 【油状物質等】 ① GL.-0.40～-0.50m、土砂にタール状物質わずかに付着、油臭有り ② GL.-1.40～-1.50m、土砂にタール状物質わずかに付着、油臭有り		

①



②



【凡 例】

- 廃棄物分析
- 埋立判定基準超過
- 埋立判定基準を満足
- 金属片
- 板状 ひしゃげた
- その他
- 油状物質等

W4地点

ボーリング柱状図

調査名 KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託







ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	W 4	調査位置	秋山県能代市浅内地内	北緯	40° 9′ 34.2″
発注機関	秋山県生活環境部環境整備課	調査期間	令和 1 年 7 月 26 日 ～ 1 年 7 月 26 日	東経	140° 2′ 26.5″
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話 (06 6206 6091)	主任技師	和田 卓也	現代場人	橋本 和茂
孔口標高	50.57m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南
総掘進長	9.00m	度	鉛直 0°	使用機種	エコプローブ
				試錐機	ハンマー落下用具
				エンジン	ポンプ

標尺	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		室内試験 (掘進月口)
										深 度	10cmごとの打撃回数		打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値	深 度	試験名および結果	深 度	試料採取番号	
											0	10							
(m)	(m)	(m)	(m)						(m)	10	20	30			(m)				
1	50.37	0.20	0.20	底層物 暗褐色土砂	暗褐色			φ20～30mmの亜円・亜角礫主体 max φ100mm程 含水小 マトリックスは粗砂	Wa2										
	49.17	1.20	1.40	砂	暗褐色			中砂主体 含水小 GL-0.40～0.60m間、シルトが多い	b2										
2	48.97	0.20	1.60	礫砂混じりシルト	暗褐色			全体的にシルト分混る φ10～20mm程度の亜円・亜角礫 点在 max φ50mm程 砂中中砂主体 GL-1.50m付近、ビニール片混入	Wa1							2.10			
3	48.57	0.40	2.00	底層物 暗褐色土砂	暗褐色			全体的に木片混入	Wa2								2.50		
	47.67	0.90	2.90																
	47.17	0.50	3.40																
4				産業物混じり上砂	暗灰～黒			GL-2.10m～2.40m有り 含水小 GL-2.10m付近、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、タール状物質わずかに付着											
5								GL-2.40m付近、シルト分多い、GL-2.40～2.50m付近、干砂にタール状物質わずかに付着、油臭有り											
6								GL-2.50m付近、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、上部土砂タール状物質付着有り GL-2.80m付近、プラスチックゴミ混入	b2										
7				底層物 暗褐色土砂	暗褐色			全体的に木片混入 臭気有り 礫は所々φ30～50mmの亜角礫混入 GL-3.30～3.40m間、木の葉が混入 含水小											
8	42.57	4.60	8.00	粘土	黄褐色～暗灰			比較的均質でやや硬質な粘性土 粘性小 臭気有り	Ps1										
9	41.57	1.00	9.00	シルト混じり砂	暗褐色～黄褐色			全体的にシルト分混る 砂は1～2mm細砂主体 含水小 臭気有り											

地点名	W4																																													
地盤高	EL.+50.57m																																													
地山境界	GL.-8.00m (EL.+42.57m)																																													
掘削中水位	無し																																													
コア写真	<table><tr><td>0</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>3</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>4</td></tr><tr><td>4</td><td></td><td>5</td></tr><tr><td>5</td><td></td><td>6</td></tr><tr><td>6</td><td></td><td>7</td></tr><tr><td>7</td><td></td><td>8</td></tr><tr><td>8</td><td></td><td>9</td></tr><tr><td>9</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>10</td><td></td><td>11</td></tr><tr><td>11</td><td></td><td>12</td></tr><tr><td>12</td><td></td><td>13</td></tr><tr><td>13</td><td></td><td>14</td></tr><tr><td>14</td><td></td><td>15</td></tr></table>	0		1	1		2	2		3	3		4	4		5	5		6	6		7	7		8	8		9	9		10	10		11	11		12	12		13	13		14	14		15
	0		1																																											
	1		2																																											
	2		3																																											
	3		4																																											
	4		5																																											
	5		6																																											
	6		7																																											
	7		8																																											
	8		9																																											
	9		10																																											
	10		11																																											
	11		12																																											
	12		13																																											
	13		14																																											
14		15																																												
埋立物の比率	盛土：約0%、木くず主体廃棄物：約5%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約95%																																													
廃棄物分析	GL.-2.10～-2.50m (EL.+48.47～48.07m) 埋立判定基準超過項目：無し																																													
特記事項	<p>【金属片】</p> <p>① GL.-2.10m、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、タール状物質わずかに付着</p> <p>② GL.-2.50m、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、 上部土砂タール状物質付着有り</p> <p>【油状物質等】</p> <p>③ GL.-2.40～-2.50m、土砂にタール状物質わずかに付着、油臭有り</p>																																													

①



②、③



【凡 例】

- 廃棄物分析
- 埋立判定基準超過
- 埋立判定基準を満足
- 金属片
- 板状 ○ ひしゃげた
- その他
- 油状物質等

W5地点

ボーリング柱状図

調査名 KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	W 5		調査位置		秋田県能代市浅内地内						北緯		40° 9' 34.1"						
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課				調査期間		令和 1年 7月 25日 ～ 1年 7月 25日				東経		140° 2' 26.8"						
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話(06-6206-6091)		主任技師		和田 卓也		現代 場 代理人		橋本 和茂		コ 鑑 定 者		橋本 和茂		ボーリング 責任者		潮田 俊英		
孔 口 標 高	51.22m	角			方位			地盤 勾配			使用 機種	試 錐 機		エコプロープ		ハンマー 落下用具			
総掘進長	10.00m	度			向					エンジン				ポンプ					

標尺	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対照	相対密度	相対稠度	記述	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試験採取番号	室内試験(月日)	掘進月日	
										深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)				試験名 および結果
											0	10	20							
(m)	(m)	(m)	(m)	図	調	度	度	事												
1	50.62	0.60	0.60		腐敗物混じり土砂	黒		全体的に金属片とビニール片、木片が混入している。臭気有り。GL-0.20~0.60m付近、ひしゃげた金属片×多数、板状金属片×3。厚み1mm未満、やや油臭有り。	7/25 9:31											
2					砂	淡褐 ～ 暗褐		中～粗砂主体。含水小。GL-1.50~1.80m付近、シルト分多い。GL-2.00~2.40m付近、シルト分多い。GL-2.90m付近、油臭有り。												
3	18.12	2.50	3.10		腐敗物混じり土砂	灰		φ20~30mmの亜角・亜円礫主体。maxφ60mm。含水小。マトリックスは粗砂。												
4	47.42	0.70	3.80		腐敗物	黒		全体的に木片含む。油臭有り。GL-4.10~4.30m付近、ビニール片、プラスチック片、金属片等の様々なゴミが混入している。GL-4.50~4.70m付近、土砂にタール状物質付着、油臭有り、礫を多く混入し含水高め。	7/25 9:31											
5	46.42	1.00	4.80																	
6																				
7					粘土	暗灰		比較的均質でやや硬質な粘土。粘性小。所々礫が混入。	7/25 9:31											
8	43.22	3.20	8.00																	
9	42.22 42.02	1.00 0.20	9.00 9.20		砂混じり粘土	黄褐		比較的軟質な粘土。粘性小。砂は細～中砂混入。												
					砂	暗褐		細～中砂主体。含水小。	7/25 9:31											
10	41.22	0.80	10.00		シルト混じり砂	黄褐		全体的にシルト分混入。砂は細～中砂主体。含水小。												

地点名	W5		
地盤高	EL.+51.22m		
地山境界	GL.-9.00m (EL.+42.22m)		
掘削中水位	GL.-9.41m (EL.+41.81m)		
コア写真	0		1
	1		2
	2		3
	3		4
	4		5
	5		6
	6		7
	7		8
	8		9
	9		10
	10		11
	11		12
	12		13
	13		14
	14		15
埋立物の比率	盛土：約2%、木くず主体廃棄物：約11%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約87% GL.-4.50~-4.70m (EL.+46.72~46.52m) 埋立判定基準超過項目：ベンゼン 0.21mg/L		
廃棄物分析			
特記事項	【金属片】 ① GL.-0.20~-0.60m、ひしゃげた金属片×多数、板状金属片×3、厚み1mm未満、やや油臭有り 【油状物質等】 ② GL.-4.50~-4.70m、土砂にタール状物質付着、油臭有り、礫を多く混入し含水高め		



【凡 例】
●廃棄物分析
□埋立判定基準超過
□埋立判定基準を満足
●金属片
○板状 ひしゃげた
●その他
○油状物質等

W6地点

調査名KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託











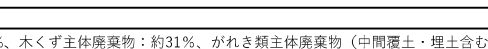
ボーリング柱状図

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	W 6	調査位置	秋田県能代市浅内地内			北緯	40° 9′ 33.9″														
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課			調査期間	令和 1年 7月 19日 ~ 1年 7月 19日			東経	140° 2′ 26.4″												
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話 (06-6206-6091)			主任技師	和田 卓也			現代場 代理人	橋本 和茂												
コ 鑑 定 者				橋本 和茂				ボーリング 責任者	潮田 俊英												
孔口標高	53.71m	角	180° 上 90° 下 0°			方	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南			地盤勾配	鉛直 水平 40° 90°			使用機種	エコプローブ			ハンマー 落下用具	ポンプ		
総掘進長	14.00m	度				向				エンジン											

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠密度	記述	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験											原位置試験		試料採取		室内試験(掘進月日)		
										深	10cm ² との打撃回数			打撃回数／貫入量(cm)	N 値	深	試験名および結果	深	試料採取番号								
											0	10	20							度	度	度					
(m)	(m)	(m)	(m)					事		(m)	10	20	30			(m)		(m)									
	53.31	0.40	0.40		砂	褐		中〜粗砂主体 含水小 GL-0.20〜0.60m付近までシルト分混る φ20〜30mm程度の曲円・曲角礫主体 max φ10mm程度 マトリックスは粗砂 GL-0.80〜0.90m付近、タール状のものが付着している GL-1.10〜1.40m間、油の付着しているビニールチューブの様なもの多数混入 薄く細長い廃プラにタール状物質付着 GL-1.50〜1.90m付近、ビニールゴミ混入 所々プラスチックゴミも有り	b1						0	10	20	30	40	50	60						
1	52.61	0.70	1.10		廃棄物泥じり土砂	灰と黒			Wa2																		
2	51.81	0.80	1.90						Wa1																		
	51.26	0.55	2.45						Wa2																		
3	50.81	0.45	2.90		廃棄物	黒			Wa1																		
	50.01	0.80	3.70						Wa2																		
4	49.31	0.70	4.40		廃棄物泥じり土砂	灰		コンクリート	Wa1																		
5	48.61	0.70	5.10		廃棄物	黒〜暗褐		全体的に本片混入 含水小 粗砂主体 GL-2.90〜3.00m間、シルト挟む GL-3.40m付近、紙のゴミ混入	Wa2																		
6	48.01	0.60	5.70		廃棄物泥じり土砂	灰		コンクリート	b2																		
	46.81	1.20	6.90						Wa2																		
7					廃棄物	灰と褐		全体的に本片混入 GL-3.70m付近、ひしゃげた金属片×3、厚み1mm未満、油状物質付着無し GL-1.30m付近、板状金属片×3〜4、厚み1mm未満、油状物質付着無し	Wa1																		
8																											
	45.01	1.80	8.70		廃棄物泥じり土砂	灰と暗灰		全体的に不均質であるが軟質なシルト 所々硬質な所も有り φ20〜30mmの曲円・曲角礫点 在 max φ100mm程度															8.60		①	廃棄物分析	
9	44.51	0.50	9.20		砂質シルト	黒		中〜粗砂															8.80				
10					廃棄物泥じり土砂	黒灰		φ30〜50mmの曲円・曲角礫主体 max φ70〜80mm 含水小 マトリックスは中砂 固結した感じ GL-6.90m付近、プルタブ混入 全体的に本片混入 GL-7.10〜7.60m付近、木くずにタール状物質付着 GL-7.10m付近、ビニールゴミ混入 GL-7.20m付近、油の付着したビニール管混入 GL-7.70m付近、衣類ゴミ混入 GL-8.20m付近、ガラス片混入 φ20〜30mmの曲円・曲角礫主体 マトリックスは粗砂 max φ100mm程度のもの点 在 全体的に本片混入 GL-9.30m付近、プラスチックゴミと金属片混入 GL-9.60m付近、金属片混入 GL-9.60〜10.00m付近、土砂にタール状物質付着、油も有り	Wa2															10.30		①	廃棄物分析
	42.91	1.60	10.80																								
11	42.71	0.20	11.00																								
	42.31	0.40	11.40		廃棄物	黒			b2																		
12	41.61	0.70	12.10																								
13					廃棄物泥じり土砂	暗灰			Ds1																		
14	39.71	1.90	14.00		廃棄物																						

地点名	W6		
地盤高	EL.+53.71m		
地山境界	GL.-12.10m (EL.+41.61m)		
掘削中水位	GL.-9.98m (EL.+43.73m)		
コア写真	0		1
	1		2
	2		3
	3		4
	4		5
	5		6
	6		7
	7		8
	8		9
	9		10
	10		11
	11		12
	12		13
	13		14
	14		15
埋立物の比率	盛土：約3%、木くず主体廃棄物：約31%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約66%		
廃棄物分析	GL.-8.60～-8.80m (EL.+45.11～44.91m) 埋立判定基準超過項目： チタニウム 0.14mg/L GL.-10.00～-10.30m (EL.+43.71～43.41m) 埋立判定基準超過項目： 無し		
特記事項	【金属片】 ① GL.-3.70m、ひしゃげた金属片×3、厚み1mm未満、油状物質付着無し ② GL.-4.30m、板状金属片×3～4、厚み1mm未満、油状物質付着無し ③ GL.-9.90m、板状金属片×1、厚み1mm程度、上下土砂にはタール状物質付着 ④ GL.-10.55m、金属片（部品？）×1、油状物質付着無し、上部土砂には油臭有り 【油状物質等】 ⑤ GL.-1.10～-1.40m、薄く細長い廃プラにタール状物質付着 ⑥ GL.-7.10～-7.60m、木くずにタール状物質付着 ⑦ GL.-9.60～-10.00m、土砂にタール状物質付着、油臭有り		



W7地点

調 査 名 KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託

ボーリング柱状図

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	W 7	調査位置	秋田県能代市浅内地内	北 緯	40° 9′ 33.9″
発 注 機 関	秋田県生活環境部環境整備課	調査期間	令和 1 年 7 月 17 日 ～ 1 年 7 月 18 日	東 経	140° 2′ 27.1″
調 査 業 者 名	株式会社建設技術研究所 電話（06-6206-6091）	主任技師	和田 卓也	現代 場 人	橋本 和茂
孔 口 標 高	54.38m	角	180° 上 90° 下 0°	方 向	北 0° 270° 西 180° 90° 東
総 掘 進 長	14.00m	地 盤 勾 配	鉛直 90° 水平 0°	使用 機 種	エコプローブ ハンマー 落下用具 ポン プ

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m) ／測定月日	標準貫入試験										原位置試験		試料採取		掘進月日
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)	試料 番号	採取 方法	室内試験 ()			
												0	10	20											
(m)	(m)	(m)	(m)								(m)														
1					砂	褐			中〜粗砂主体 含水小	b1															
	52.88	1.50	1.50																						
2	52.38 32.18	0.50 0.20	2.00 2.20		シルト 混じり 砂	暗褐 灰			中〜粗砂主体 含水小 全体的にシルト分含む GL-1.80m付近、ビニール片混入																
	51.78	0.40	2.60		廃棄物 混じり 土砂	灰			コンクリート																
3					廃棄物 混じり 土砂	黒			全体的に木片混入 GL-2.30m付近、金属片混入 GL-2.40〜2.50m付近、砂礫混入 φ30〜50mm程度の皿片・皿角礫 主体 max φ80mm程度 マトリックスは中砂 含水小 GL-2.70〜2.80m付近、ガラス片 混入 GL-2.90m付近、ゴミ・ビールの蓋 混入	Wa2															
4	50.68	1.10	3.70		廃棄物 混じり 土砂	灰 と 暗灰 と 灰				Wa1															
5																									
6	47.88	2.80	6.50		廃棄物	黒			全体的に木片混入 GL-3.70〜4.00m付近、ゴミ混入 GL-4.30〜4.50m間、ゴミ混入 GL-4.70〜4.80m間、ゴミ混入 GL-5.40m付近、板状金属片×2 厚み1mm未満、付着物有り（緑色 塗料?） GL-6.00〜6.10m間、ゴミ混入 GL-6.50m付近、ひしゃげた金属 片×1、厚み1mm未満、 付着物有り（白色クリーム状） 砂は中砂主体 シルト分少量含 む GL-7.00m付近、木片とビニール 片混入 GL-7.50m付近、ビニールゴミ混 入 臭気有り φ20〜30mmの皿片・皿角礫主体 max φ100mm程度 全体的に木片混入 GL-8.90m付近、タイル破片混入 GL-9.50m付近、板状金属片×5枚 程度、厚み1mm未満、それぞれが 密着 タール状付着物無し、やや油臭 有り GL-9.70〜10.00m付近、タイル片 多数 GL-10.80〜11.00m付近、釘とガ ラス片点在する GL-11.30m付近、レンガ混入 臭気有り	b2															
7	46.88	1.00	7.50																						
8																									
9					砂	黄褐 と 暗褐				Wa1															
10																									
11	42.98	3.90	11.40		廃棄物	暗褐 と 黒				Ds1															
12																									
13																									
14	40.38	2.60	14.00		砂	暗黄 褐 〜 暗褐 〜 暗黄 〜 暗褐			細〜中砂主体 含水小 GL-12.10〜12.70m間、シルト分 含む																

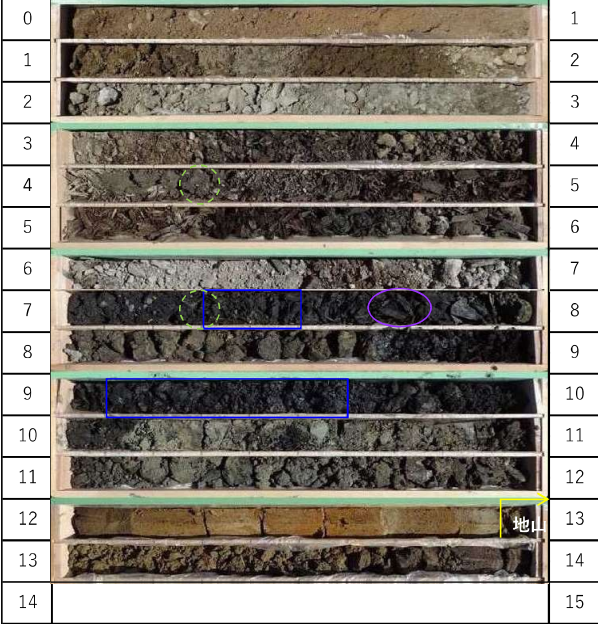
地点名	W7
地盤高	EL.+54.38m
地山境界	GL.-11.40m (EL.+42.98m)
掘削中水位	無し
コア写真	
埋立物の比率	盛土：約18%、木くず主体廃棄物：約59%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約24%
廃棄物分析	GL.-7.30～-7.60m (EL.+47.08～46.78m) 埋立判定基準超過項目： トリクロエレン 0.11mg/L GL.-9.10～-9.60m (EL.+45.28～44.78m) 埋立判定基準超過項目： 無し
特記事項	【金属片】 ① GL.-5.40m、板状金属片×2、厚み1mm未満、付着物有り（緑色塗料？） ② GL.-6.50m、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、付着物有り（白色クリーム状） ③ GL.-9.50m、板状金属片×5枚程度、厚み1mm未満、それぞれが密着 タール状付着物無し、やや油臭有り



- 【凡 例】
- 廃棄物分析
 - 埋立判定基準超過
 - 埋立判定基準を満足
 - 金属片
 - 板状 ○ ひしゃげた
 - その他
 - 油状物質等

ボーリング名	W 8		調査位置		秋田県能代市浅内地内						北 緯 40° 9' 33.7"					
発 注 機 関	秋田県生活環境部環境整備課				調査期間		令和 1 年 7 月 10 日 ～ 1 年 7 月 11 日				東 経 140° 2' 26.1"					
調 査 業 者 名	株式会社建設技術研究所 電話 (06-6206-6091)		主任技師 和田 卓也		現 場 代 理 人		橋本 和茂		コ ン 定 者		橋本 和茂		ボーリング責任者		山 岸 俊 輔	
孔 口 標 高	53.77m	<div>角 度</div> <div><div>180°</div><div>上</div><div>90°</div><div>270°</div><div>西</div><div>180°</div><div>東</div><div>90°</div><div>南</div></div>	<div>方 向</div>	<div>地 盤 勾 配</div> <div>鉛 直 90°</div> <div>水平 0°</div>	使用機種	試 錐 機		E C O - III - V				ハンマー落下用具				
総 掘 進 長	14.00m					度		エンジン		ポン プ						

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験										原位置試験		試料採取		室内試験 (掘進月日)						
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験 名 および結果	深 度 (m)	試料 番号	採取 方法										
												0	10	20																	
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分	調	度	度	事		(m)	10	20	30		0	10	20	30	40	50	60	(m)		(m)						
1	51.97	1.80	1.80		礫混じり砂	黄褐色 暗褐色			中～粗砂主体 曲円・曲角礫混入 φ30～50mm礫多数 max φ100mm GL-1.30m付近、粘土混入 GL-1.50～1.80m間、シルト分含む	b1																					
2	50.17	1.50	3.30		廃棄物 混じり 土砂	灰 暗灰			曲円・曲角礫主体 マトリックスは粗砂 φ50mm程度の礫多数混入 max φ100mm	Wa2																					
3																															
4																															
5	48.17	2.30	5.60		廃棄物	暗灰			全体的に木片混入 GL-4.20m付近、φ150mm程の玉石混入 GL-4.30m付近、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm程度、油状物質付着無し GL-3.70～4.30m間、礫多数混入	Wa1																					
6																															
7	46.77	1.40	7.00		廃棄物 混じり 土砂	灰			φ30～50mmの曲円・曲角礫主体 GL-5.70～6.00m付近、玉石点在 GL-5.80～5.90m間、木片混入 GL-6.00m付近、木板混入 GL-6.80m付近、混ガラ混入	Wa2																					
8	45.87	0.90	7.90						全体的に木片を混入 max φ100mm程度、礫多数混入 全体的に木片混入 GL-7.30m付近、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm程度、油状物質付着無し GL-7.40m付近、混ガラ混入 GL-7.60～7.70m付近、板状プラスチック片・木くずとタール状物質付着あり GL-7.70m付近、プラスチック片混入 GL-7.90m付近、ビニール混入 不均質な粘土 含水小 所々礫混ざる	Wa1															7.30						
9	44.97	0.90	8.80		廃棄物	黒			不均質な粘土 含水小 所々礫混ざる GL-8.20mとGL-8.70m付近、硬質な粘土混入	b2																7.50					
10	44.67	0.30	9.10							Wa1																9.10					
11	43.77	0.90	10.00							Wa2																9.80					
12																															
13	41.77	2.00	12.00		砂混じり粘土	暗灰			臭気有り GL-8.70～9.20m付近まで木片混入 GL-9.20～9.70m間、ガラ混入 max φ100mm GL-9.60m付近、金属片混入 全体に均質で硬質な粘性土 含水小 砂は中砂 所々礫混入する GL-9.70m付近、プラスチックゴミ混入 GL-10.10m付近、金属混入 GL-10.50m付近、金属混入	b2																					
14	40.77	1.00	13.00		砂混じり粘土	暗灰～淡～暗灰				bs1																					
15	39.97	0.80	13.80		粘土	黄褐色～淡～暗灰			均質な粘性土 含水小																						
16	39.77	0.20	14.00		粘土	黄褐色～淡～暗灰																									
					シルト混じり砂	淡褐色～暗灰			中砂主体 全体的にシルト分含む																						
					粘土混じり砂	暗灰			全体的に砂が混る比較的硬質な粘性土 マトリックスは中砂 含水小																						







地点名	W8
地盤高	EL.+53.77m
地山境界	GL.-12.90m (EL.+40.87m)
掘削中水位	無し
コア写真	
埋立物の比率	盛土：約14%、木くず主体廃棄物：約27%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約59%
廃棄物分析	GL.-7.30～-7.50m (EL.+46.47～46.27m) 埋立判定基準超過項目：無し GL.-9.10～-9.60m (EL.+44.67～44.17m) 埋立判定基準超過項目：無し
特記事項	<p>【金属片】</p> ① GL.-4.30m、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm程度、油状物質付着無し ② GL.-7.30m、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、油状物質付着無し
	<p>【油状物質等】</p> ③ GL.-7.60～-7.70m、板状プラスチック片・木くずにタール状物質付着有り



【凡 例】
●廃棄物分析
□埋立判定基準超過
□埋立判定基準を満足
●金属片
○板状 ひしゃげた
●その他
○油状物質等

事業・工事名												シートNo			
ボーリング名	W 9			調査位置		秋田県能代市浅内地内						北緯	40° 9' 33.7"		
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課					調査期間		令和 1年 7月 11口 ~ 1年 7月 12口			東経	140° 2' 26.3"			
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話 (06-6206-6091)			主任技師		和田 卓也		現 場 代 理 人		橋本 和茂 コ 鑑 定 者		橋本 和茂	ボーリング 責 任 者	山 岸 俊 輔	
孔 口 標 高	54.09m	角 180° 上 90° 下 0° 度	方 北 0° 270° 西 180° 南 東	地 盤 勾 配 鉛直 水平0° 鉛直 90°	使用 機種	試 錐 機		ECO-Ⅲ-V			ハンマー 落下用具				
総掘進長	14.00m					エンジン					ポンプ				

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対調度	相対稠度	記事	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入試験										原位置試験		試料採取		室内試験(掘進月日)		
										深 度	10cmごとの打撃回数			打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値	深 度	試験名 および結果	深 度	試料番号	採取方法						
											0	10	20													
(m)	(m)	(m)	(m)							(m)	10	20	30	(cm)	0	10	20	30	40	50	60	(m)		(m)		
1					凝 泥 じり 砂	褐 暗 褐		中〜粗砂主体 φ3〜5mm程度の卵円・亜角礫点 在	b1																	
2																										
3	51.09	3.00	3.00		腐棄物 凝 じり 土砂	暗 褐		マトリックスは中〜粗砂 GL-3.45m付近、φ100mm程度の礫 有り	Wa2																	
4	50.39	0.70	3.70		腐棄物 凝 じり 土砂	黒		全体的に木片混入	Wa1															4.00		
5	49.79	0.60	4.30		腐棄物 凝 じり 土砂			全体的に均質な粘性土 粘性小 所々φ100〜150mmの礫混入 GL-4.70m付近、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、油状物質付着無し GL-5.80m付近、土砂にタール状物質付着有り																4.30		腐棄物分析
6	48.29	1.50	5.80		腐棄物 凝 じり 土砂	灰		コンガラ混じる GL-6.10m付近、ビニール片混入	Wa2																	
7	47.49	0.80	6.60		腐棄物 凝 じり 土砂	暗 褐		軟質な粘性土 粘性小 含水小 max φ100mm程度の礫、3〜5カ所点 在 GL-7.00〜7.10m間、砂を多く含む																		
8	46.39	1.10	7.70		腐棄物 凝 じり 土砂	暗 褐		全体的に木片混入	Wa1																	
9	46.09	0.30	8.00		腐棄物 凝 じり 土砂	黒		土砂を主体とし、ガラス片、タイル片等を混入	Wa2																	
10	41.89	1.20	9.20		腐棄物 凝 じり 土砂	黒		マトリックスは中〜粗砂 φ30〜50mmの卵円・亜角礫点 在 max φ100mm程度の礫、3〜5カ所点 在 GL-9.90m付近、プラスチック片 有り	Wa1															10.20		腐棄物分析
11	41.09	0.80	10.00		腐棄物 凝 じり 土砂	黒		全体的に木片混入 GL-10.40m付近、ゴミ混入 GL-10.60m付近、ガラス片混入 GL-10.90m付近、ビニールひも、ビニール袋、ビニール片混入	Wa1															10.80		
12	43.09	1.00	11.00		腐棄物 凝 じり 粘土	暗 灰		全体的に木片混入 マトリックスは細砂 比較的に均質な粘性土 粘性小 GL-11.50m付近、ゴミ点 在 所々木片有り	b2																	
13	42.59	0.50	11.50		腐棄物 凝 じり 粘土	黒		比較的に均質で軟質な粘性土 粘性小 GL-12.20m付近、木片混入	Js1																	
14	42.09	0.50	12.00		腐棄物 凝 じり 粘土	暗 灰		比較的に均質で軟質な粘性土 粘性小 GL-12.20m付近、木片混入																		
15	41.69	0.40	12.40		腐棄物 凝 じり 粘土	暗 灰		比較的に均質で軟質な粘性土 粘性小 GL-12.20m付近、木片混入																		
16	40.09	1.60	14.00		腐棄物 凝 じり 砂	黄 褐 淡 褐		比較的に均質で軟質な粘性土 粘性小 砂は細砂主体																		

地点名	W9		
地盤高	EL.+54.09m		
地山境界	GL.-12.40m (EL.+41.69m)		
掘削中水位	無し		
コア写真	0		1
	1		2
	2		3
	3		4
	4		5
	5		6
	6		7
	7		8
	8		9
	9		10
	10		11
	11		12
	12		13
	13		14
	14		15
埋立物の比率	盛土：約24%、木くず主体廃棄物：約14%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約62%		
廃棄物分析	GL.-4.00～-4.30m (EL.+50.09～49.79m) 埋立判定基準超過項目：トリクロロフェン 0.18mg/L、トリクロロフェン 0.13mg/L		
	GL.-10.20～-10.80m (EL.+43.89～43.29m) 埋立判定基準超過項目：トリクロロフェン 0.22mg/L、トリクロロフェン 0.17mg/L		
特記事項	【金属片】 ① GL.-4.70m、ひしゃげた金属片×1、厚み1mm未満、油状物質付着無し		
	【油状物質等】 ② GL.-5.80m、土砂にタール状物質付着有り		



- 【凡 例】
- 廃棄物分析
 - 埋立判定基準超過
 - 埋立判定基準を満足
 - 金属片
 - 板状 ○ ひしゃげた
 - その他
 - 油状物質等

W10地点

調 査 名 KAN31-Y8令和元年能代産業廃棄物処理センターNo.2処分場調査設計業務委託

ボーリング柱状図

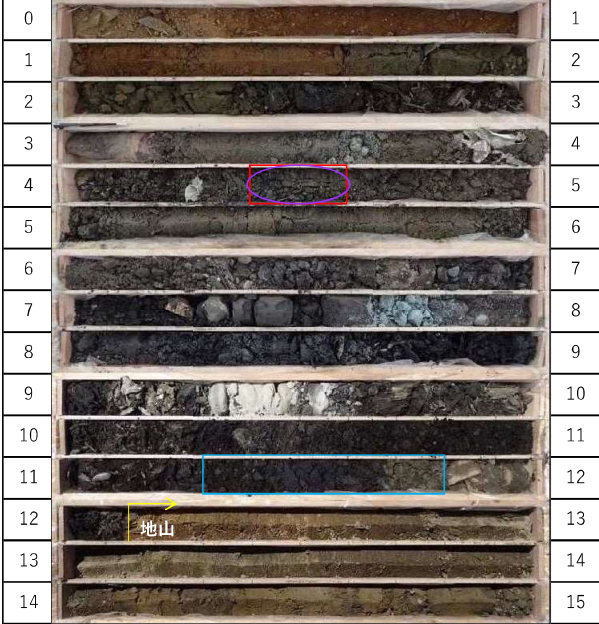
事業・工事名

シートNo

ボーリング名	W10		調査位置		秋田県能代市浅内地内					北緯40° 9' 33.7"								
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課				調査期間		令和1年7月9日～1年7月10日			東経140° 2' 26.7"								
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話(06-6206-6091)		主任技師		和田卓也		現場代理人		橋本和茂		コ定者		橋本和茂		ボーリング責任者		潮田俊英	
孔口標高	54.74m	角			方	北0°		地盤勾配	鉛直90°		使用機種	試錐機		エコブローブ			ハンマー落下用具	
総掘進長	15.00m	度			向	下0°						エンジン		ポンプ				

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質区分	色対比調度	相対稠度	記事	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入試験										原位置試験		試験採取		室内試験(掘進月日)
										深	10cmごとの打撃回数			打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値	深	試験名および結果	深	試験番号	採取方法				
											度	0	10								20	度	度	
(m)	(m)	(m)	(m)							(m)	10	20	30		(m)		(m)							
1					砂	褐 暗灰		GL-0.00~0.10m付近、上のう混入 GL-0.20m付近、塩と破片混入 GL-0.35m付近、さびた釘混入 GL-1.30m付近よりシルト分混ざる																
	53.14	1.60	1.60						b1															
2					シルト混じり砂	暗灰		中へ粗砂主体 含水小																
	52.29	0.85	2.45																					
3					廃棄物	暗灰		GL-2.50m付近、ベットボルト片混入 全体的に木及び木片混入 臭気有り																
	51.54	0.75	3.20						Wa2															
4					緑泥じり砂	暗褐		全体的に中砂含む GL-3.50~3.60m間、シルト分多い GL-3.60~3.70m間、φ30~50mmの礫多い GL-3.90m付近、ゴミ及び金属片混入 GL-4.30m付近、ビニール片混入 油臭有り																
						黒 暗褐			Wa1										4.40					
5								GL-4.40~4.60m付近、油有り スリーブに付着											4.60					
	49.64	2.90	6.10																					
6					廃棄物混じり土砂	暗褐		全体的にφ30~50mmの重円礫混入 GL-6.20~6.60m間、木片混入 GL-7.10mとGL-7.30m付近、金属片有り GL-7.60~7.80m間、混ガラ混入 max φ100mmの砂点がある																
						灰 黒			Wa2															
7								全体的に木片混入 GL-8.20~8.60m間、砂礫分多い GL-8.60m付近、プラスチック片混入 GL-8.70m付近、タイル片混入 GL-9.10~9.30m付近まで細片混入 臭気有り																
	45.14	1.00	9.30																					
8					廃棄物混じり土砂	暗灰		コンクリートガラ全体に																
	45.14	0.30	9.60						Wa1															
9								全体的に木片混入 GL-9.70~9.80m間、木混入 GL-9.80m付近、ビニール片混入 GL-10.30m付近、ガラス片混入 GL-10.40~10.50m付近、金属片とガラス片混入 GL-10.90m付近、金属混入 GL-11.30~11.80m付近、砂礫へ木片混入 GL-11.80~12.00m間、木混入																
	42.59	2.56	12.13		廃棄物	黒													11.30					
10																			11.80					
11																								
12																								
13																								
14					砂	黄褐 淡褐灰		中へ粗砂主体 含水小 GL-12.10~12.50m間、少しシルト分含む																
	40.64	1.95	14.10						Js1															
15					シルト混じり砂	黄褐 淡褐灰		中へ細砂主体 含水小 全体にシルト分混入する																
	39.74	0.90	15.00																					

1-19

地点名	W10
地盤高	EL.+54.74m
地山境界	GL.-12.15m (EL.+42.59m)
掘削中水位	無し
コア写真	
埋立物の比率	盛土：約20%、木くず主体廃棄物：約27%、がれき類主体廃棄物（中間覆土・埋土含む）：約53%
廃棄物分析	GL.-4.40～-4.60m (EL.+50.34～50.14m) 埋立判定基準超過項目： ヒトクサ酸 25mg/L、1,1,1-トリクロロエタン 19mg/L、 トリクロロエタン 20mg/L、1,4-ジクロロベンゼン 33mg/L GL.-11.30～-11.80m (EL.+43.14～42.94m) 埋立判定基準超過項目：無し
特記事項	【金属片】 無し 【油状物質等】 ① GL.-4.00～-5.00mの掘進時のサンプラーに油状物質付着 コア試料ではGL.-4.40～-4.60mの土砂に油状物質が多く付着

①-1



①-2



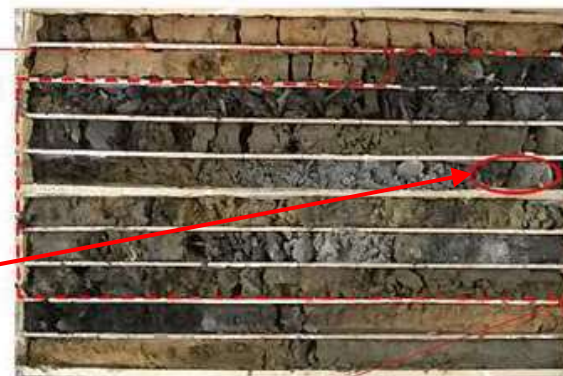
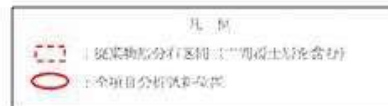
【凡 例】

- 廃棄物分析
- 埋立判定基準超過
- 埋立判定基準を満足
- 金属片
- 板状 ○ ひしゃげた
- その他
- 油状物質等

B-W5 (掘削長L: 10.00m)

柱状図									
標尺	層高	層厚	深度	柱状	土質	色相	相対	相対	記
(m)	(m)	(m)	(m)	図	区分	調度	密度	稠度	事
1	53.17	1.35	1.35		覆土	黄褐			ローム質粘土。
	52.87	0.30	1.65		覆土	褐			中砂。
2	52.32	0.55	2.20		廃棄物	暗褐			木くすからなる廃棄物。
	51.77	0.55	2.75		廃棄物	黄褐			粘土が混在した木くすからなる廃棄物。
	51.64	0.78	2.83		廃棄物	暗褐			木くすからなるが、径数mmの金属片などをわずかに含む廃棄物。
3	51.32	0.32	3.20		廃棄物	暗灰			焼質土主体であるが、コンクリート片を含む廃棄物。
	50.52	0.30	4.00		覆土	褐			中砂、中間覆土と思われる。
4	50.17	0.35	4.35		廃棄物	暗褐			中砂混じり木くすからなる廃棄物。
	49.63	0.55	4.90		廃棄物	灰			砕石、コンクリート片混じり砂質粘土からなる廃棄物。コア採取時に油膜状の光沢あり。
5					覆土	黄褐 / 灰褐			硬直り粘土を主体とする。角礫状(1~4cm)の青灰色のシルト状岩を、パッチ状に含む。
6	48.22	1.18	6.08		廃棄物	黒			スラッジ状の硬直り砂からなる廃棄物。
	47.87	0.25	6.63		廃棄物	灰			コンクリートからなる廃棄物。
7	47.53	0.65	7.10		覆土	暗灰			粘土主体。
	47.27	0.15	7.25		廃棄物	暗褐			木くす主体であるが、砂を含む廃棄物。
8	46.52	0.75	8.00		埋土	褐			細砂~中砂からなり、黄褐色粘土をパッチ状に含む。
	46.02	0.50	8.50		有機質土	黒褐			上部に木片があるものの、黒ボウ土状であり、旧表土と思われ、自然地表である。
9	45.12	0.90	9.40		粘土	黄褐			ローム状で、自然地表である。
	44.52	0.60	10.00		中砂	灰褐			粒子が均一であり、自然地表である。含水率高く、緩い。

ボーリングコア写真と試料採取位置



コア採取時に油膜状の光沢があった廃棄物の性状等調査(全項目分析)。

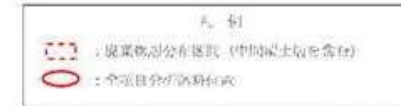
図4-1-11 B-W5ボーリング調査結果

出典:「平成17年度 能代産業廃棄物処理センター処分場ボーリング調査業務委託」に加筆

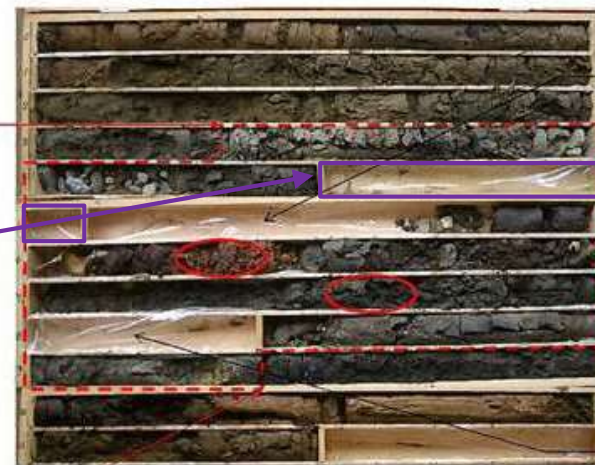
B-W6 (掘削長L: 11.50m)

柱状図										
標高	層厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記		
尺	高	度	状	区	調	密	稠			
(m)	(m)	(m)	図	分	度	度	度	事		
1	53.49	1.15	1.15	覆土	褐く暗灰			砂質粘土〜粘土からなる。		
2				覆土	褐く暗灰			中砂を主体とするが、2.8m付近に木くずが混じる。		
3	51.28	2.20	3.35							
4	50.98	0.30	3.65	廃棄物	灰			わずかに石灰と思われる白色物と木片を含む硬質土からなる廃棄物。		
5	50.14	0.85	4.50	廃棄物	暗灰			所々木くずが混じるが、全般にコンクリート片や硬質土主体の廃棄物。		
6	49.54	0.60	5.10	空孔				4.8〜4.9mに採取済み。		
7	48.94	0.60	5.70	廃棄物	暗灰			コアチップが自重落下。ベレーでも採取できず。		
8	48.19	0.75	6.45	廃棄物	暗灰			所々、ロケットで採取し、細いから状物と思われるが、コアはほとんど採取できず。		
9				廃棄物	暗灰			前方の来るゴミカスラッシュ状物と思われる廃棄物。		
10				廃棄物	暗灰			8.9m〜9.15mにドラム缶と思われる金属片あり。溶剤残臭あり。		
11				廃棄物	暗灰			8.7m〜9.25mは暗灰色を呈し、8.25m〜9.45mは暗灰色を呈し、8.5mより9.95mに薄い金属片あり。		
12	46.24	1.90	8.35	廃棄物	黒灰			8.0〜8.4m間はコア採取されず、コンクリート片や木くずからなる廃棄物。		
13	45.28	0.90	9.25	廃棄物	暗灰			黄緑色の樹皮片が付着。8.5mに金属くずあり。		
14	44.44	0.80	10.05	埋土	暗灰			風化シルト岩片が混じる粘土を主体とするが、部分的に礫や鉄くずを含む。		
15	43.74	0.70	10.75	有機質土	黒褐			一部の鉄くずには黄緑色の樹皮片が付着する。		
16	43.14	0.60	11.35	粘土	暗灰			所々木片が混じるが、全般に黒が粘土状を呈し、自然堆積である。		
17				中砂	暗灰			ローム状を呈する粘土で、自然堆積である。		
18								やや細粒分の混じる中砂で、粒径が均一であり、自然堆積である。		

ボーリングコア写真と試料採取位置



【平成19年度掘削工事】
標高EL. 48.0mまで掘削済み



空間的部分は、ベレーによる使用により、おもに廃棄物が埋められており、ほとんど採取されず、ベレーによる採取も困難な状態。

一 腐食コアガス調査でベンゼンが検出。全長10mで腐食現象のある廃棄物 (ゴミカスラッシュ状) の性状等調査 (全項目分析)。

二 腐食コアガス調査でベンゼンが検出。全長10mで腐食現象のある廃棄物 (有機質土) の性状等調査 (全項目分析)。

空間的部分は、試料に分布する腐食物と腐食の発生物が認められるが、より精密であったため、コアとして採取されなかった区間。

図4.12 B-W6ボーリング調査結果

出典:「平成17年度 能代産業廃棄物処理センター処分場ボーリング調査業務委託」に加筆

SB-1地点（平成25年度調査）

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

調査名 平成25年度 KAN25-Y4能代産業廃棄物処理センター処分場ボーリング調査

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	SB-1	調査位置	秋田県能代市浅内 地内	北緯	
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課	調査期間	平成25年8月28日～26年3月10日	東経	
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話(018-853-4351)	主任技師	和田卓也	現代理人	湯浅忠
調査業者名		主任技師		コア鑑定者	橋本和茂
ボーリング名		主任技師		ボーリング責任者	潮田俊英
孔口標高	52.71m	角	180°上 60° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0°
総掘進長	11.00m	度	0°	使用機種	エコプローブ
				エンジン	ハンマー落下用具 ポンプ

標高	層厚	柱状図	土質	色相	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試験採取	室内試験	
									深さ	N 値						
										10cmごとの打撃回数	貫入量	試験名および結果				
(m)	(m)	(m)	区分	調度	度	事		(m)	10	20	30	(m)	深さ	試験番号	採取方法	
51.81	0.90	0.90	腐土	暗灰		中砂主体の細溜り砂 含水小～中 GL-0.2m付近に木屑混入 GL-0.6m付近にレンガ片混入	b	12/10 6.41	0	10	20	30	40	50	60	
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																

【平成29年度掘削工事】
標高EL.45.0mまで掘削済み

出典：「平成25年度 能代産業廃棄物処理センター処分場ボーリング調査業務委託」に加筆

簡略柱状図	コア写真			コア状況等										
	処分場	No.2処分場		分類	不燃物				可燃物	含水	臭い			
孔番	SB-1		金属くず		タールピッチ	ガラス及び陶磁器くず	がれき類	ばいじん、塵じん、灰じん、塵じん、いじん、廃石綿	廃プラスチック類及びゴムくず	木くず	腐くず、繊維くず及び動植物性残さ			
	地盤標高	EL.		52.71										m
掘進長	L=		11.00	m										
地下水位	GL.	-	-	m										
EL.	-	-	-	m										
				1					◎	土砂、砂	△	木片	低	無
				2					◎	土砂、砂	△	木片	低	無
				3	△				◎	土砂、砂	△	木片	低	無
				4			△	レンガ片	◎	土砂、砂	△	木片	低	低
				5				△	◎	土砂、砂	△	木片	低	中
				6					◎	土砂、砂	△	木片	中	中
				7		◎			◎	土砂、砂	△	木片	高	高
				8	○	鉄片	△	ガラス片	◎	土砂、砂	△	木片	高	中
				9			△	ガラス片	◎	土砂、砂	△	木片	高	低
				10					◎	土砂、砂	△	木片	中	低
				11					◎	砂質土			中	無
◎：比較的多く分布 ○：全体に散布して分布 △：一部に点在して分布														
---：分析深度 ---：容器に入った油状物質 ○：透水シート ...：VOC又は1,4-ジオキサン検出深度														

【空洞】

・GL. -5.90～6.30m

ペイザンブラーで油状物質採取



・GL. -6.30～6.65m

廃棄物と思われるがコア採取できず

・GL. -6.65～7.00m

【金属片】

・GL. -7.20～7.50m

ドラム缶と思われる金属片有り



出典：「平成25年度 能代産業廃棄物処理センター処分場ボーリング調査業務委託」に加筆

ボーリング柱状図

7 B

8 B

ボーリング名	7B		調査位置		秋田県能代市浅内地内				北緯		40° 9' 34.4451"		
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課				調査期間		平成 26年 8月 7日 ~ 27年 3月 20日			東経		140° 2' 26.1840"	
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話 (06-6206-6091)		主任技師 和田 卓也		現 場 人		湯浅 忠 コー定 者 橋本 和茂			ボーリング 責任者		土師 啓司	
孔口標高	54.41m	角	180 ト 下 90°	方	北 0° 270° 西 180° 東 90°	地盤 勾配	水平 0°		使用 機種	ハンマー 落下用具			
総掘進長	14.00m	度		向		エンジン	ECO-3V			ハンマー ポンプ			

[illegible]

ボーリング名	8B		調査位置		秋田県能代市浅内地内						北緯		40° 9' 33.9622"			
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課				調査期間		平成 26年 8月 7日 ~ 27年 3月 20日				東経		140° 2' 26.1084"			
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話 (05-6206-6091)		主任技師		和田 卓也		現代人場 代理人		湯浅 忠 コ鑑定者		ア橋本 和茂		ボーリング 責任者		土師 啓司	
孔口標高	54.58m		角		180° 270° 90° 0°		方		北 東 南 西		地盤勾配		鉛直 水平		使用機種	
総掘進長	15.00m		度		下 上		向		西 東		エンジン		ECO-3V		ハンマー 落下用具 ポンプ	

[illegible]

10B地点（平成26年度調査）

ボーリング柱状図

調査名 平成26年度KAN26-Y9能代産業廃棄物処理センター処分場保有水対策等業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	10B	調査位置	秋田県能代市浅内地内	北緯	40° 9' 34.3870"
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課	調査期間	平成26年8月7日～27年3月20日	東経	140° 2' 26.8138"
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話(06-6206-6091)	主任技師	和田卓也	現代人	湯浅忠
孔口標高	54.16m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 180° 南 90°
総掘進長	13.00m	地盤勾配	水平	試験機	EC0-3V
		使用機種	エンジン	ハンマー	落下用具
				ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験										原位置試験 試験名 および結果	試験 深	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	
											深	10cmごとの 打撃回数	N 値													
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分	調	度	度	事	(m)	深	0	10	20	30	40	50	60	(m)							
1					砂土	灰			土として細砂土体 φ2~5mmの細砂少量混入	b1																
2	52.25	1.90	1.90		廃棄物	灰			ビニール・プラスチック混入	Na1																
3	51.15	1.10	3.00		廃棄物 土	暗褐色			焼灰・コンクリートガラ等混入	Na2																
4					覆土	灰			土として細砂土体	b2															4.30	
5	48.95	1.95	5.20		廃棄物 土	灰			コンクリートガラ土体	Na2															4.60	
6	48.06	0.90	6.10		廃棄物	灰褐色			木片混入 GL+0.25~+0.8m間崩壊体あり (木片は細砂土体)	Na1																
7	47.33	0.71	6.81		土	黄褐色			黄褐色の細砂土質を確認	Na															7.20	
8	46.16	0.77	8.00		砂土	暗褐色			細砂土体	b2															7.50	
9	45.38	0.80	8.80		廃棄物 土	黄褐色			全粒に土砂混り廃棄物 コンクリートガラ含む	Na2																
10					砂土	黄褐色 暗褐色			全粒に細砂土体	b2																
11	42.80	2.70	11.50																							
12					砂質土	褐色			砂は微~細砂土体 シルト分全体に散らばる	Na1																
13	41.16	1.50	13.00																							

出典：「平成26年度 地

【平成29年度掘削工事】
標高EL.45.0mまで掘削済み

出典：「平成26年度 能代産業廃棄物処理センター処分場保有水対策等業務委託」に加筆

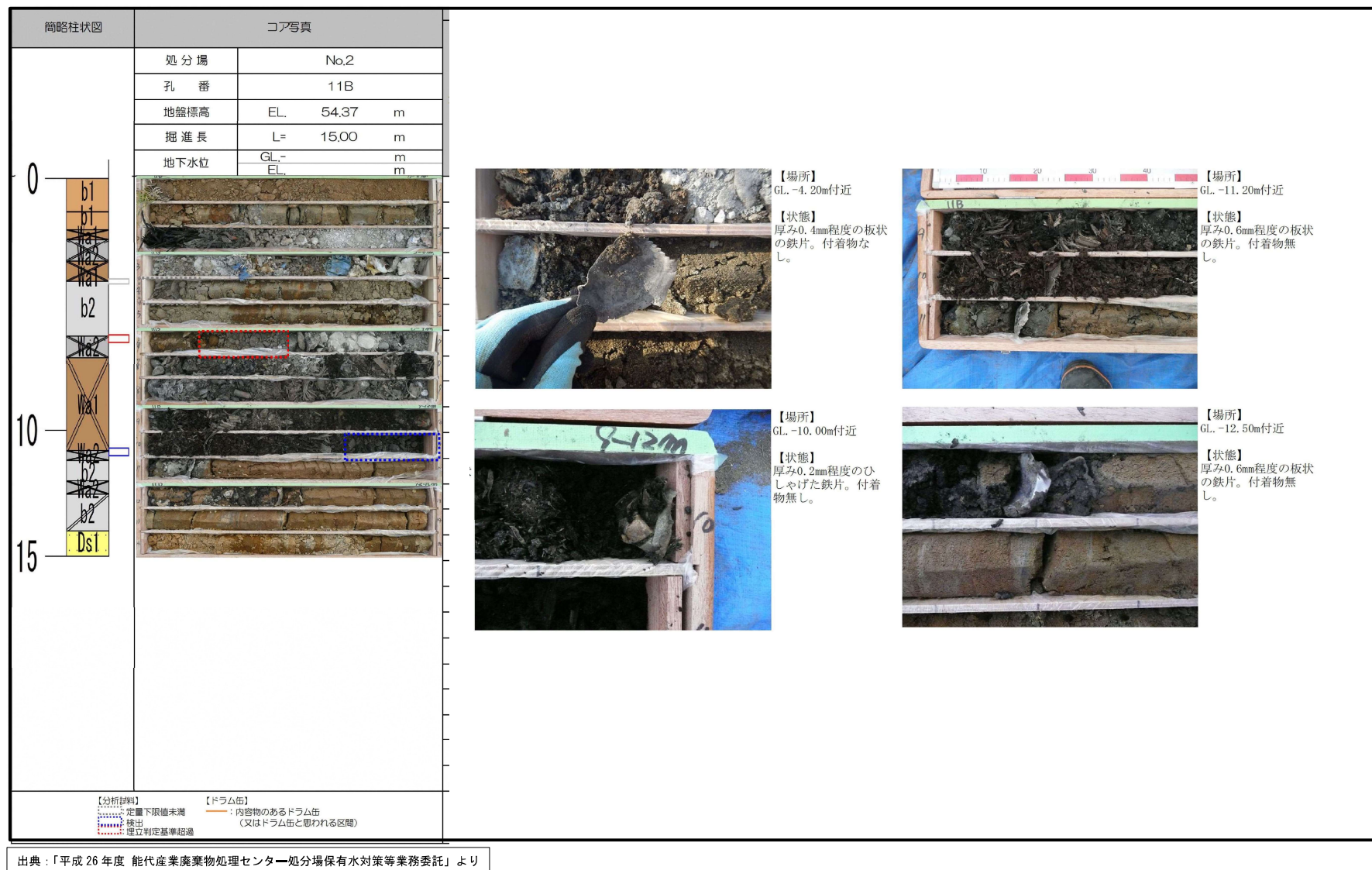
事業・工事名

シートNo

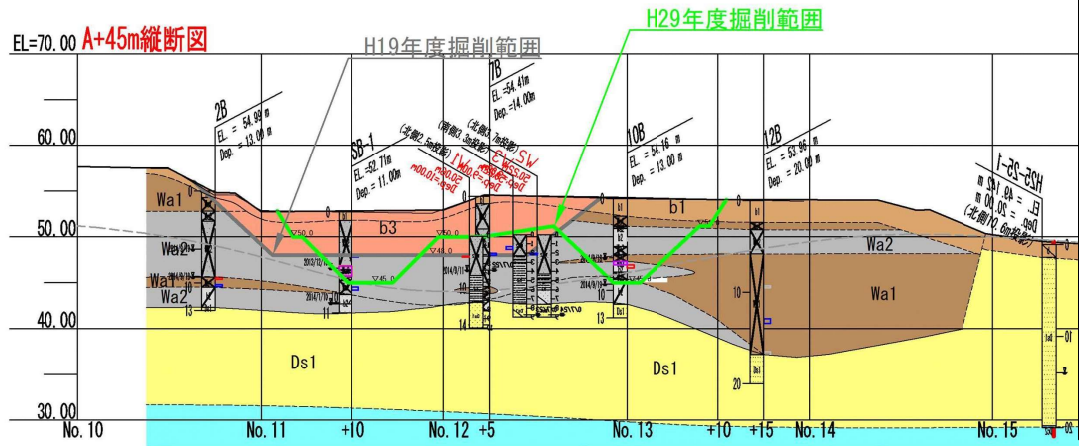
11B地点（平成26年度調査）

ボーリング名	11B		調査位置		秋田県能代市浅内地内					北緯		40° 9' 33.9042"							
発注機関	秋田県生活環境部環境整備課				調査期間		平成 26年 8月 7日 ~ 27年 3月 20日				東経		140° 2' 26.7377"						
調査業者名	株式会社建設技術研究所 電話（06-6206-6091）		主任技師		和田 卓也		現代場人 代理人		湯浅 忠		コア 鑑定者		橋本 和茂		ボーリング 責任者		潮田 俊英		
孔口標高	54.37m	角			方			地盤勾配			使用機種	試錐機		エンジン		ハンマー 落下用具		ポンプ	
総掘進長	15.00m	度			向														

標尺	層高	深度	柱状図	土質区分	色相対比	相対稠度	相対密度	記号	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験										原位試験		試験採取		室内試験(掘進月日)				
										深	10cmごとの打撃回数			打撃回数／貫入量	N 値	深	試験名および結果	深	試験採取番号									
											0	10	20							度	度	度	度		度	度		
(m)	(m)	(m)	(m)					事	(m)	(m)	10	20	30	(cm)	0	10	20	30	40	50	60	(m)		(m)		号	法	
1	53.07	1.30	1.30		覆土	灰褐色		細砂主体	b1																			
2	52.37	0.70	2.00		覆土	灰褐色		全体にシルト分混入する砂(細砂)主体 GL=0.00m~0.50mまでφ5mm~φ20mmの角礫・曲円礫点存在 GL=1.20m~1.30m粘土塊状で混入 GL=1.50m以下ガラ混入 含水中	Wa1																			
3	51.07	0.90	3.30		廃棄物	暗灰		GL=1.95mスポンジ GL=2.00m~GL=2.15m油の付着したビニールチューブ主体 GL=2.15m~GL=2.40m砂(細砂)若干混入する不層土体鉄片混入する	Wa1																			
4	50.27	0.80	4.10		廃棄物	暗灰		φ2mm~φ25mmの曲円礫主体 マトリックスとして砂(細砂~中砂) GL=3.00m付近 GL=3.00m~GL=3.15mシルト質砂かなしガラ片混入 含水中	b2																			
5	48.12	2.15	6.25		廃棄物	暗灰		全体としてビニール主体 GL=2.50m~GL=3.00mガラ片混入 GL=4.10m鉄片混入	Wa2																			
6	47.27	0.85	7.10		覆土	褐灰色		全体にシルト混入する砂(細砂~中砂)主体 所々粘土塊状で混入 下部油混りの水認められる 含水中	Wa2																			
7	47.27	0.85	7.10		廃棄物	暗灰		コンクリートガラ・アスファルトガラ	Wa1																			
8	43.57	3.70	10.80		廃棄物	暗灰		全体として本層主体 マトリックスとして砂(細砂) GL=8.95~9.00mガラ片・コンガラ混入 GL=10.00m鉄片混入 GL=10.20mビニールシート混入 GL=10.30m鉄片混入	Wa1																			
9	43.17	0.40	11.20		廃棄物	暗褐色		全体に砂(細砂)混入する比較的硬い粘性土 GL=11.10m鉄片混入	Wa2																			
10	42.37	0.80	12.00		覆土	褐色		細砂を混入する比較的硬い粘性土	b2																			
11	41.82	0.55	12.55		廃棄物	褐~黒褐色		比較的硬い粘性土 燃え殻・木の炭・鉄片・針金が不規則に混入	Wa2																			
12	40.37	1.45	14.00		埋土	褐色		全体に粘土混入する砂(細砂~中砂)主体 含水中	b2																			
13	40.37	1.45	14.00		砂質土	褐色		全体にシルト分混入する砂(細砂~中砂)主体 含水中	Ds1																			
14	39.37	1.00	15.00		砂質土	褐色		全体にシルト分混入する砂(細砂~中砂)主体 含水中	Ds1																			
15	39.37	1.00	15.00		砂質土	褐色		全体にシルト分混入する砂(細砂~中砂)主体 含水中	Ds1																			



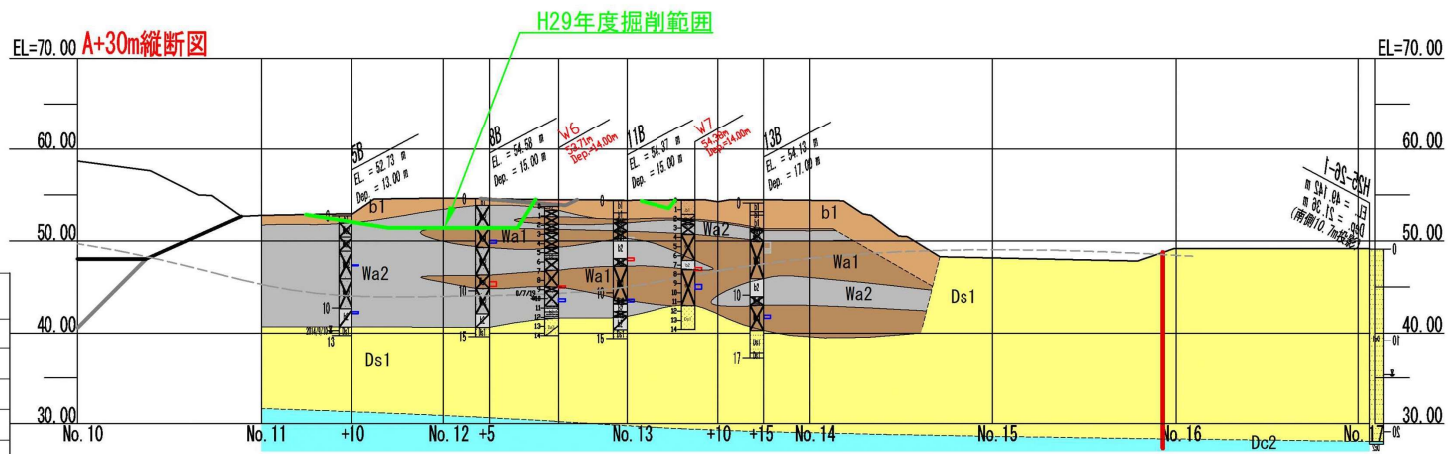
参考資料 2 縦横断図



【簡略柱状図の見方】

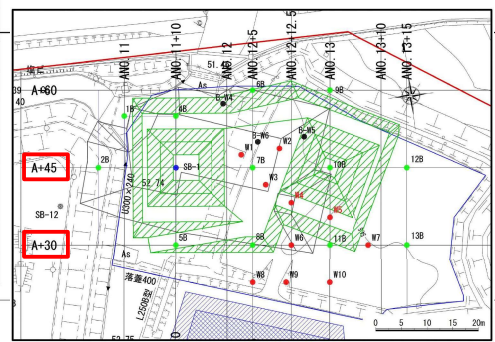
【地点名】
赤字：本業務のボーリング調査結果
黒字：既往のボーリング調査結果
 ※ なお、文字が反転している簡略柱状図は投影して断面に反映

【廃棄物分析結果】
赤字：埋立判定基準を超過
青字：検出
 灰色枠：定量下限値未満



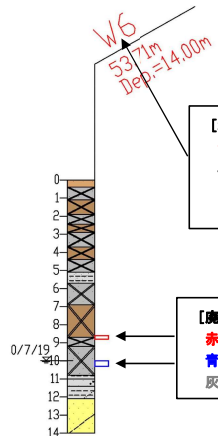
地質構成表

地質時代	層区分	地層名	記号	構成土質
第四紀	沖積層	掘削埋戻土	b3	H19掘削埋戻土
		盛土層	b1	掘削しり土砂、砂質土
		中間埋戻土(埋土)	b2	廃棄物面り土砂、廃棄物面り砂質土
		廃棄物層	Wa1	木くず主体廃棄物
		廃棄物層	Wa2	がれき主体廃棄物
	古河砂丘堆積物	沖積砂層1	Da1	沖積砂層1
		沖積砂層2	Da2	沖積砂層2
		沖積砂層3	Da3	沖積砂層3
	天満寺層	砂層	Ts	砂層
		シルト層	To	シルト層



A+30m ~ A+45m		工 業 審 査 号
路 線 名		
箇 所 名	No.2配分場	
工 事 名		
縦断面図 (1/2)		縮 尺
用 意	設 計	図 面 審 査 号
秋 田 県		

【簡略柱状図の見方】



【地点名】

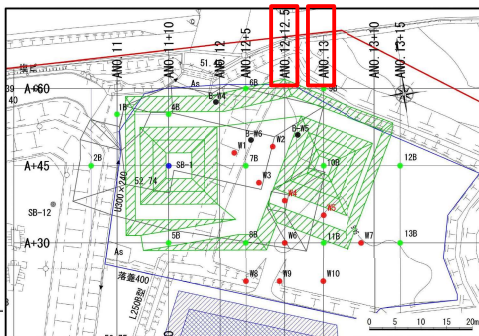
赤字：本業務のボーリング調査結果
黒字：既往のボーリング調査結果
※ なお、文字が反転している簡略柱状図は投影して断面に反映

【廃棄物分析結果】

赤字：埋立判定基準を超過
青字：検出
灰色字：定量下限値未満

地質構成表

地質時代	層区分	地層名	記号	構成土質
第四紀	埋没層	埋没埋戻土	b3	埋没埋戻土
		盛土層	b1	礫混じり土砂 砂質土
		中間層土（埋土）	b2	廃棄物混じり土砂 廃棄物混じり砂質土
		廃棄物層	Wa1	木くず主体廃棄物
		廃棄物層	Wa2	がれき類主体廃棄物
	沖積層	沖積粘土層1	Acl	有機質シルト シルト
		洪積砂層1	Da1	中砂～細砂
		洪積粘土層1	Dcl	シルト ローム
	現丘堆積物（高西側）	洪積粘土層2	Dc2	粘土 粘土質シルト・砂質シルト
		洪積砂層2	Ds2	細砂
新第三紀	天徳寺層	洪積砂層	Dsg	砂質
		砂岩	Tss	砂岩（細砂）
		シルト岩	To	シルト岩



ANO-13

EL=62.58
FH=

W10
54.7m
Dep.=15.00m

W18
54.97m
Dep.=15.00m

W15
54.22m
Dep.=15.00m

W10B
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

H19年度掘削範囲

ANO-12+12.5

EL=

FH=

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

W10
54.16m
Dep.=13.00m

H29年度掘削範囲

EL=70.00

60.00

50.00

40.00

30.00

20.00

10.00

0.00

-10.00

-20.00

-30.00

-40.00

-50.00

-60.00

-70.00

-80.00

-90.00

-100.00

-110.00

-120.00

-130.00

-140.00

-150.00

-160.00

-170.00

-180.00

-190.00

-200.00

-210.00

-220.00

-230.00

-240.00

-250.00

-260.00

-270.00

-280.00

-290.00

-300.00

-310.00

-320.00

-330.00

-340.00

-350.00

-360.00

-370.00

-380.00

-390.00

-400.00

-410.00

-420.00

-430.00

-440.00

-450.00

-460.00

-470.00

-480.00

-490.00

-500.00

-510.00

-520.00

-530.00

-540.00

-550.00

-560.00

-570.00

-580.00

ANO-12+12.5 ~ ANO-13

工 事 名

No. 2掘削場

工 事 名

横断図 (3/4)

縮 尺

無 差

設 計

図 面 番 号

秋 田 県

工 事 名

No. 2掘削場

工 事 名

横断図 (3/4)

縮 尺

無 差

設 計

図 面 番 号

秋 田 県

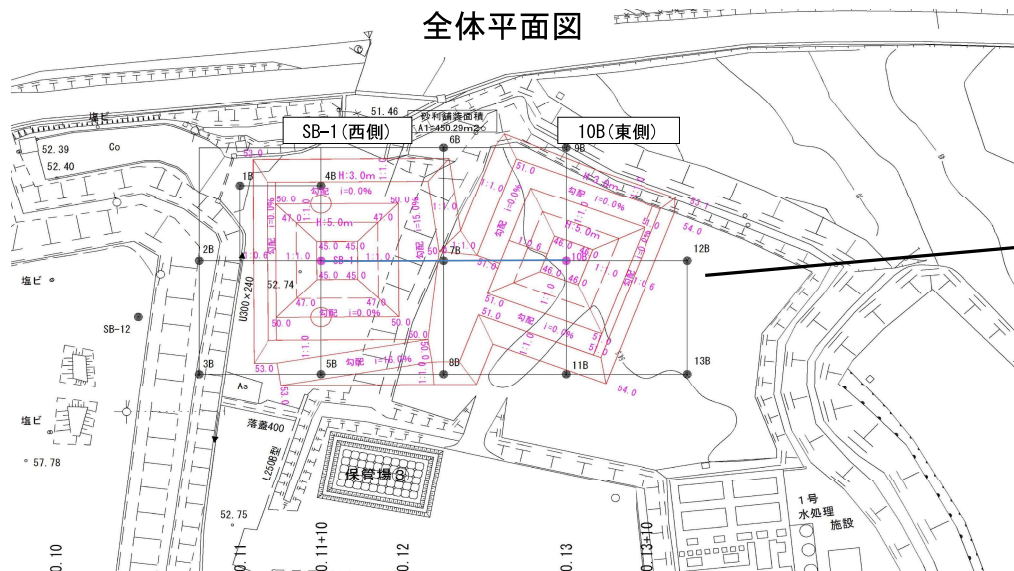


参考資料３ 平成２９年度 Ｎｏ．２処分場ドラム缶掘削撤去工事の概要

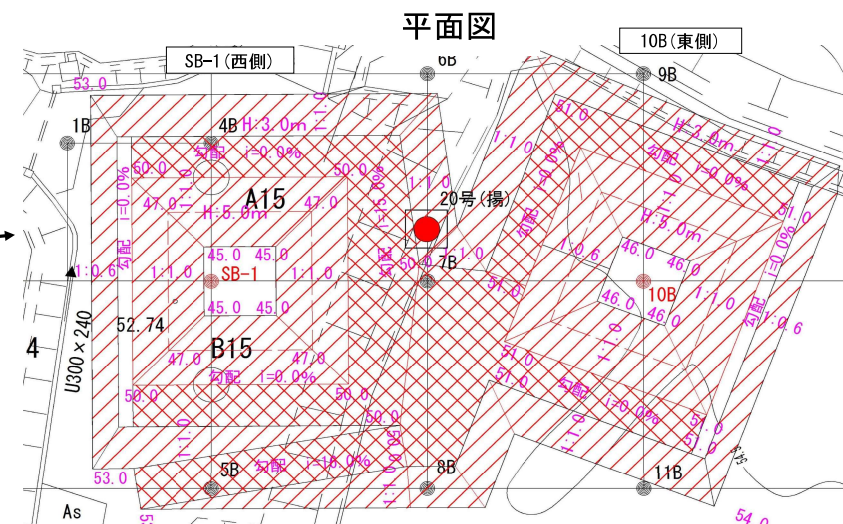
（第３１回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会配付資料から抜粋）

No. 2処分場ドラム缶掘削撤去工事

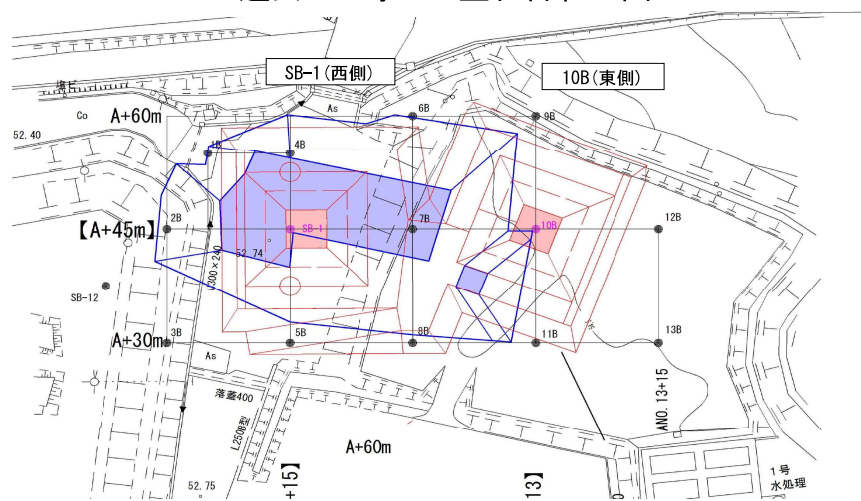
全体平面図



平面図

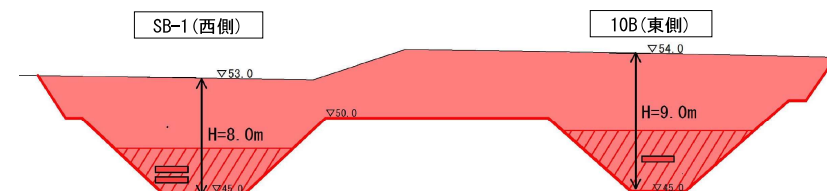


過去の工事との重ね合わせ図



凡例	
H18,19年度	
H29年度	

掘削断面図



SB-1 (西側)

標高 (ELm)	掘削深度 (G.L-m)	液状物 (本)	固形物 (本)	空 (本)	計 (本)
EL53.0					
EL52.0	0~1m				
EL51.0	1~2m				
EL50.0	2~3m				
EL49.0	3~4m				
EL48.0	4~5m				
EL47.0	5~6m	10	11	4	25
EL46.0	6~7m	20	12	13	45
EL45.0	7~8m	13	7	7	27
計		43	30	24	97

10B (東側)

標高 (ELm)	掘削深度 (G.L-m)	液状物 (本)	固形物 (本)	空 (本)	計 (本)
EL54.0					
EL53.0	0~1m				
EL52.0	1~2m				
EL51.0	2~3m				
EL50.0	3~4m				
EL49.0	4~5m				
EL48.0	5~6m	54	49	10	113
EL47.0	6~7m	61	23	8	92
EL46.0	7~8m	75	14	2	91
EL45.0	8~9m	26	5	0	31
計		216	91	20	327

ドラム缶の埋立確認状況

N ｏ． 2 処分場

内容物の確認本数													
	確認 本数	液状物					固形物					空	計
		50L 以下	50 ～ 100L	100 ～ 150L	150 ～ 200L	小計	50L 以下	50 ～ 100L	100 ～ 150L	150 ～ 200L	小計		
西側地点 SB-1	97	14	11	10	8	43	6	12	6	6	30	24	97
東側地点 10B	327	37	77	68	34	216	10	16	18	47	91	20	327
合計	424	51 (12%)	88 (21%)	78 (18%)	42 (10%)	259 (61%)	16 (4%)	28 (7%)	24 (6%)	53 (13%)	121 (29%)	44 (10%)	424 (100%)

(注 1) 合計欄下段の () は、総本数 (424本) に対する割合である。

【SB-1 (西側地点)】
○地質について
前回掘削時の埋戻土が約 5 m (E.L48.0 まで) 埋まっており、その下底盤部まで (E.L45.0) は
がれき類主体廃棄物が埋まっていた。
○ドラム缶本数について
ドラム缶の撤去本数は 97 本で、そのうち液体物入りが 43 本、腐プラスチック類などの
固形物入りが 30 本、空缶は 24 本であった。
○ドラム缶の確認深さについて
掘削深さ約 6 m に対して、深さ 5 m ～ 8 m の区間で 97 本確認された。
特に 6 m ～ 7 m (E.L47.0 ～ E.L46.0) の区間で多く、45 本 (47%) 確認された。

【10B (東側地点)】
○地質について
現地盤から約 1.5 m (E.L52.5) まで覆土が埋まっており、その下 1.5 m (E.L51.0) には
木くず主体廃棄物が埋まっていた。E.L51.0 ～ E.L45.0 (底盤部) までにはがれき類主体廃棄物
が埋まっていた。
○ドラム缶本数について
ドラム缶の撤去本数は 327 本で、そのうち液体物入りが 216 本、腐プラスチック類
などの固形物入りが 91 本、空缶は 20 本であった。
○ドラム缶の確認深さについて
掘削深さ約 9 m に対して、深さ 5 m ～ 9 m の区間で 327 本確認された。
特に突出して確認された深度はなく、深さ 5 m ～ 9 m の区間でまとまった形で確認された。

西側地点 SB-1

10月16日 深さ 6.0～7.0m



10月21日 掘削完了(深さ 約8.0m)



東側地点 10B

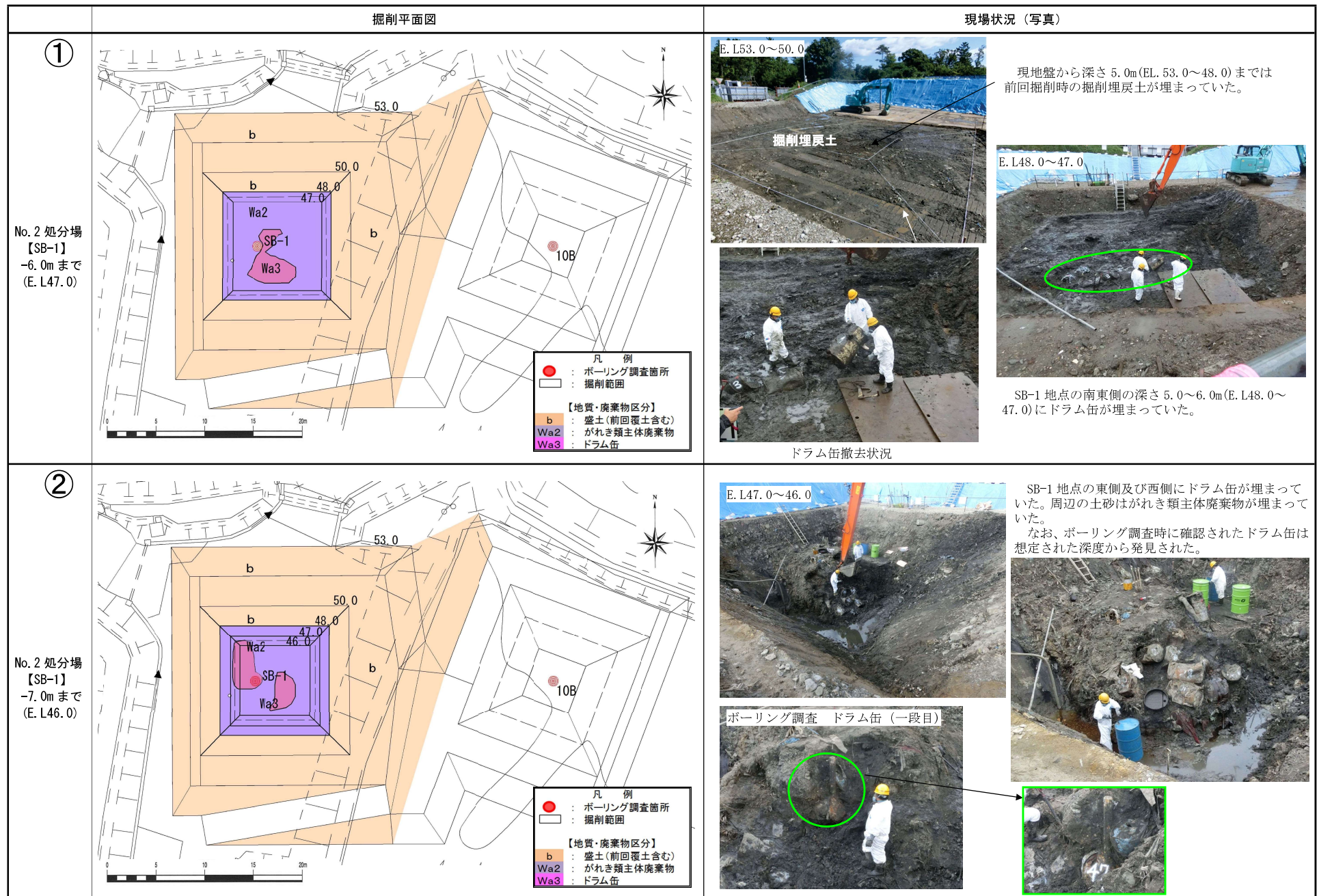
11月15日 深さ 7.0～8.0m



11月22日 掘削完了(深さ 約 9.0m)



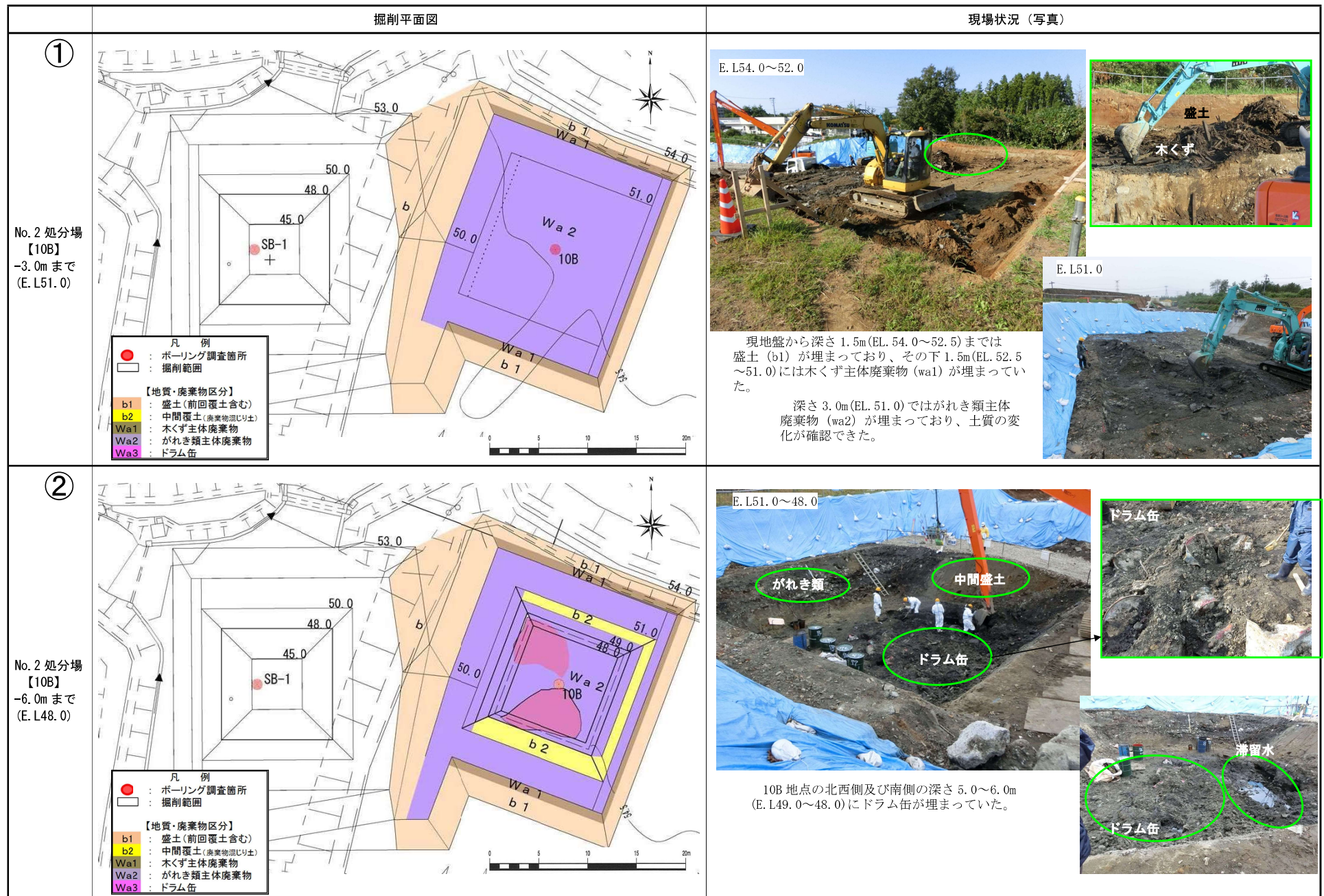
深さ別の廃棄物分布状況 (NO.2 処分場) SB-1 (西側)



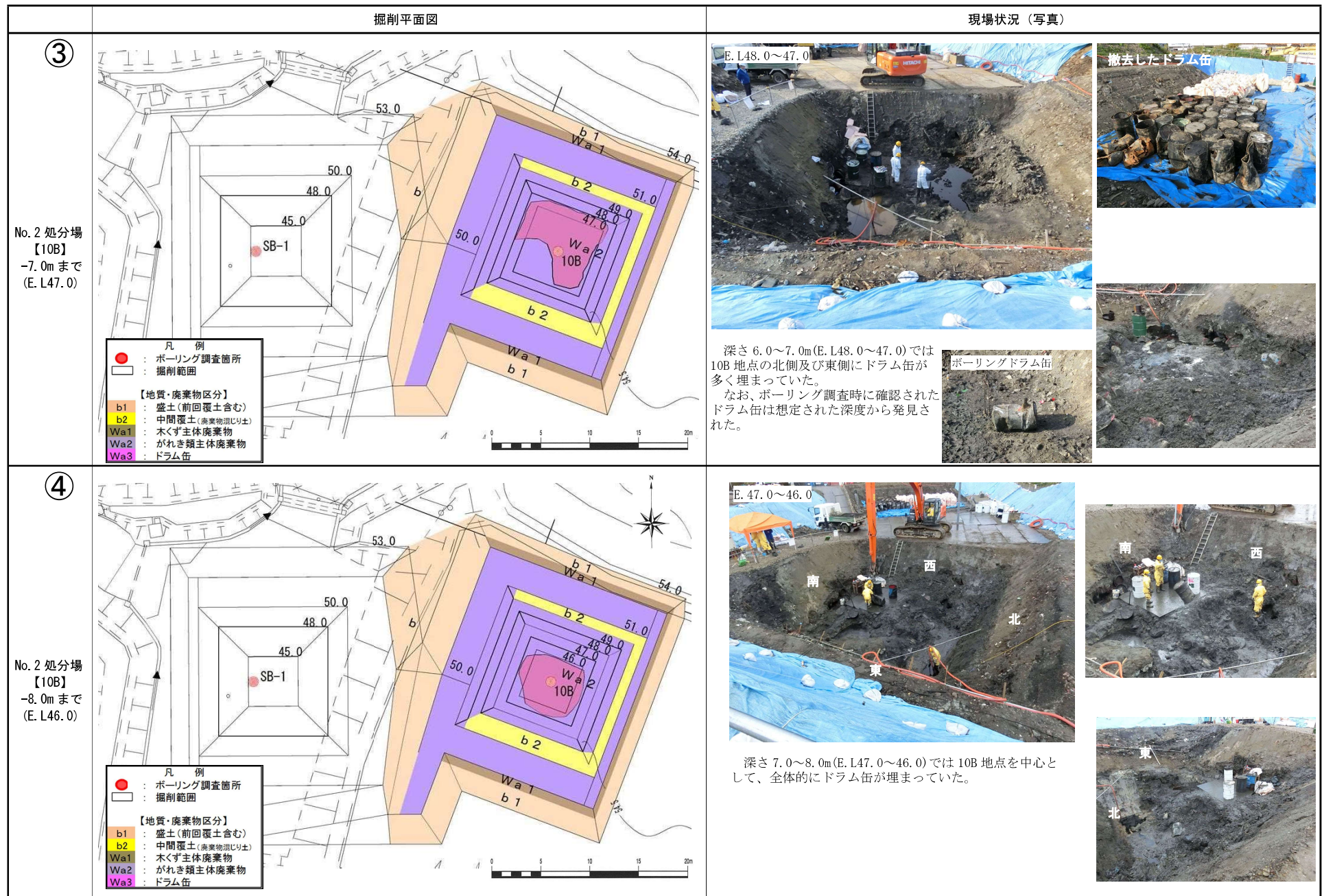
深さ別の廃棄物分布状況（N0.2 処分場）SB-1（西側）

	掘削平面図	現場状況（写真）
<p>③</p> <p>No. 2 処分場 【SB-1】 -8.0m まで (E. L45.0) 完成底面</p>		<p>SB-1 地点の深さ 7.0~8.0m(E. L46.0~45.0)ではボーリング位置を中心としてドラム缶が埋まっていた。 なお、底盤部においてドラム缶は残存していなかった。</p>

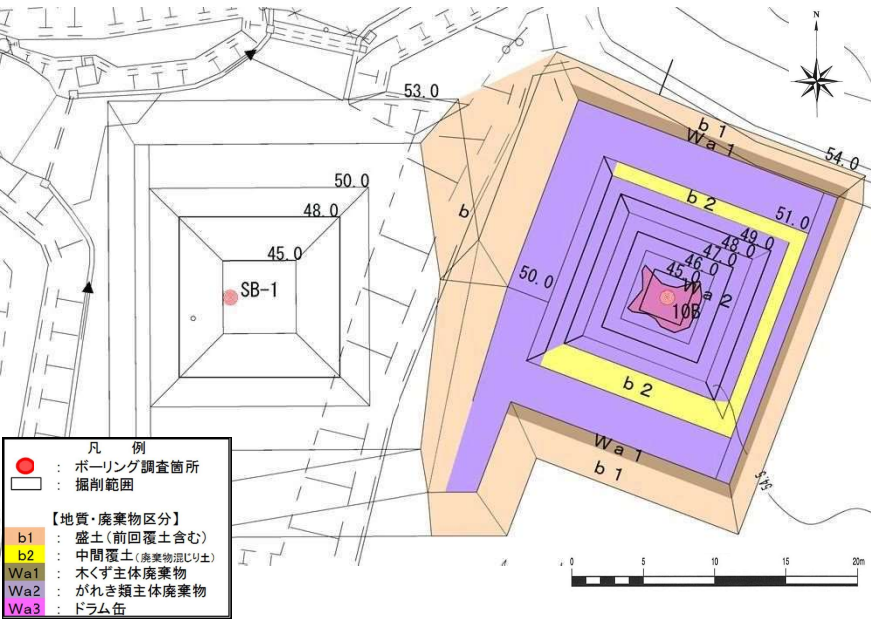

深さ別の廃棄物分布状況 (No. 2 処分場) 10B (東側)








深さ別の廃棄物分布状況（No. 2 処分場）10B（東側）



深さ別の廃棄物分布状況（No. 2 処分場）10B（東側）

	掘削平面図	写 真
⑤ No. 2 処分場 【10B】 -9.0m まで (E. L45.0) 完成断面		<p>写真</p>  <p>深さ 9.0m (E. L45.0) ではボーリング箇所を中心として、ドラム缶が埋まっていた。 なお、底盤部においてドラム缶は残存していなかった。</p>

ドラム缶内容物の性状等一覧表（西側：液状物）

	A	B	C	D	E
	液状物	液状物	液状物	液状物	液状物
色	黄褐色	黄	黄	茶	黄
粘性	低粘性	中～高粘性	低粘性	低粘性	低～中粘性
臭い	溶剤臭	溶剤臭	消毒液臭	接着剤臭	薬品臭・酸っぱい臭い
内容物例					
主な成分 (定性分析結果)	フェノール系	揮発性有機化合物 (VOC:トルエン系、キシレン系)	シロキサン化合物	フェノール系	フェノール系
主な用途	樹脂、医薬品、染料等の原料、消毒剤等	染料、塗料、香料、合成樹脂の原料等	化粧品、接着剤、シリコーンの原料等	樹脂、医薬品、染料等の原料、消毒剤等	樹脂、医薬品、染料等の原料、消毒剤等
分析結果 (検出された項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・カドミウム又はその化合物 : 0.003mg/L ・鉛又はその化合物 : 0.37 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.02 mg/L ・ジクロロメタン : 3.5 mg/L ・1,2-ジクロロエタン : 28 mg/L ・ベンゼン : 0.82 mg/L ・1,4-ジオキサン : 2.5 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀又はその化合物 : 0.38 mg/L ・鉛又はその化合物 : 0.02 mg/L ・ホルムアルデヒド : 9.6 mg/L ・トリクロロエチレン : 2.1 mg/L ・テトラクロロエチレン : 0.6 mg/L ・ジクロロメタン : 0.19 mg/L ・1,2-ジクロロエタン : 0.051mg/L ・1,1,2-トリクロロエタン : 0.57 mg/L ・ベンゼン : 1.9 mg/L ・1,4-ジオキサン : 0.21 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀又はその化合物 : 0.0005mg/L ・鉛又はその化合物 : 0.08 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.01 mg/L ・ホルムアルデヒド : 0.40 mg/L ・トリクロロエチレン : 4.4 mg/L ・テトラクロロエチレン : 3.5 mg/L ・ジクロロメタン : 12 mg/L ・1,2-ジクロロエタン : 31 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.08 mg/L ・1,1,2-トリクロロエタン : 0.18 mg/L ・ベンゼン : 3.7 mg/L ・1,4-ジオキサン : 4.4 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・カドミウム又はその化合物 : 0.010 mg/L ・鉛又はその化合物 : 3.4 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.06 mg/L ・ホルムアルデヒド : 0.0024mg/L ・ジクロロメタン : 5.9 mg/L ・1,2-ジクロロエタン : 5.2 mg/L ・ベンゼン : 0.29 mg/L ・1,4-ジオキサン : 10 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛又はその化合物 : 0.06 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.01 mg/L ・ホルムアルデヒド : 0.0008mg/L ・トリクロロエチレン : 0.03 mg/L ・テトラクロロエチレン : 0.01 mg/L ・ジクロロメタン : 1.1 mg/L ・1,2-ジクロロエタン : 61 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.14 mg/L ・ベンゼン : 2.4 mg/L ・1,4-ジオキサン : 4.1 mg/L
廃棄物の区分	廃油	廃油	廃油	廃油	廃油
備考	「廃油」……鉱物性油及び動植物性油脂に係る全ての廃油				

ドラム缶内容物の性状等一覧表（東側：液状物）

	F	G	H	I	J	K
	液状物	液状物	液状物	液状物	液状物	液状物
色	黒	黒褐色	緑	茶白濁	茶褐色	黄
粘性	高粘性	低粘性	中粘性	低粘性	低粘性	高粘性
臭い	タール臭	タール臭・溶剤臭	薬品臭	薬品臭・接着剤臭	薬品臭	燃料油臭
内容物例						
主な成分 (定性分析結果)	・揮発性有機化合物 (VOC:トルエン系、キシレン系) ・軽質油類	揮発性有機化合物 (VOC:トルエン系)	軽質油類	アルコール類	脂肪酸化合物	軽質油類
主な用途	・染料、塗料、香料、合成樹脂の原料等 ・石油化学工業等に使用	染料、塗料、香料、合成樹脂の原料等	石油化学工業等に使用	溶剤、燃料、香料等	食品の脂質の成分等	石油化学工業等に使用
分析結果 (検出された項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀又はその化合物 : 0.0098mg/L ・鉛又はその化合物 : 0.23 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.01 mg/L ・トリクロロエチレン : 7.9 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.87 mg/L ・ジクロロメタン : 6.0 mg/L ・四塩化炭素 : 0.19 mg/L ・1,2-ジクロロエチレン : 320 mg/L ・1,1,2-トリクロロエチレン : 0.02 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 8.7 mg/L ・1,1,2-トリクロロエチレン : 0.23 mg/L ・ベンゼン : 14 mg/L ・1,4-ジメチルベンゼン : 9.9 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀又はその化合物 : 0.011mg/L ・鉛又はその化合物 : 0.14 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.05 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.011mg/L ・トリクロロエチレン : 37 mg/L ・トリクロロエチレン : 870 mg/L ・ジクロロメタン : 8.9 mg/L ・四塩化炭素 : 0.027mg/L ・1,2-ジクロロエチレン : 10 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 280 mg/L ・1,1,2-トリクロロエチレン : 18 mg/L ・1,3-ジクロロベンゼン : 120 mg/L ・ベンゼン : 980 mg/L ・1,4-ジメチルベンゼン : 820 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛又はその化合物 : 0.83 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.04 mg/L ・セレン又はその化合物 : 0.01 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.0011mg/L ・トリクロロエチレン : 0.02 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.04 mg/L ・四塩化炭素 : 0.012 mg/L ・1,2-ジクロロエチレン : 0.20 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.10 mg/L ・1,1,2-トリクロロエチレン : 0.060 mg/L ・1,3-ジクロロベンゼン : 0.002 mg/L ・ベンゼン : 2.6 mg/L ・1,4-ジメチルベンゼン : 0.26 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀又はその化合物 : 0.013 mg/L ・鉛又はその化合物 : 0.31 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.04 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.0008mg/L ・トリクロロエチレン : 2.3 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.51 mg/L ・ジクロロメタン : 2.6 mg ・四塩化炭素 : 0.005 mg/L ・1,2-ジクロロエチレン : 0.68 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 1.8 mg/L ・1,1,2-トリクロロエチレン : 0.018 mg/L ・1,3-ジクロロベンゼン : 0.015 mg/L ・ベンゼン : 1.8 mg/L ・1,4-ジメチルベンゼン : 9.9 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀又はその化合物 : 0.27 mg/L ・ガドリウム又はその化合物 : 0.35 mg/L ・鉛又はその化合物 : 6.5 mg/L ・砒素又はその化合物 : 0.08 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.0033mg/L ・トリクロロエチレン : 4.7 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.65 mg/L ・ジクロロメタン : 2.8 mg/L ・四塩化炭素 : 0.005 mg/L ・1,2-ジクロロエチレン : 0.46 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 2.4 mg/L ・1,1,2-トリクロロエチレン : 0.005 mg/L ・1,3-ジクロロベンゼン : 2.0 mg/L ・ベンゼン : 2.9 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ・水銀又はその化合物 : 0.018mg/L ・トリクロロエチレン : 0.99 mg/L ・トリクロロエチレン : 0.11 mg/L ・ジクロロメタン : 0.18 mg/L ・四塩化炭素 : 0.10 mg/L ・1,2-ジクロロエチレン : 0.20 mg/L ・シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.43 mg/L ・1,1,2-トリクロロエチレン : 1.0 mg/L ・1,3-ジクロロベンゼン : 0.26 mg/L ・ベンゼン : 6.9 mg/L
廃棄物の区分	廃油	廃油	廃油	廃油	廃油	廃油
備考	「廃油」……鉱物性油及び動植物性油脂に係る全ての廃油					

ドラム缶内容物の性状等一覧表（西側：固形物）

	Z	Y	X	W	V
	固形物	固形物	固形物	固形物	固形物
色	茶褐色	黒褐色	黒褐色	茶褐色	黒 ・ 灰色
粘性	高粘性	固体（粒子状）	固体（土状）	高粘性	固体（ゼリー状 + 泥状）
臭い	溶剤臭	食品系の臭い （ハンバーグ？ミートソース？のような臭い）	薬品臭	薬品臭 ・ 油臭	薬品臭
内容物例					
主な成分 （定性分析結果）	芳香族化合物 （揮発性有機化合物（VOC：ベンゼン系、トルエン系、キシレン系）を含む）	脂肪酸化合物	・ 芳香族化合物 （揮発性有機化合物（VOC：トルエン系、キシレン系）を含む） ・ シラン化合物	脂肪酸化合物	芳香族化合物 （揮発性有機化合物（VOC：トルエン系、キシレン系）を含む）
分析結果 （検出された項目）	・ ベンゼン : 0.04mg/L	・ 鉛又はその化合物 : 0.07mg/L ・ ジクロロメタン : 0.04mg/L ・ シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.14mg/L ・ ベンゼン : 0.04mg/L	・ トリクロロエチレン : 0.05mg/L ・ テトラクロロエチレン : 0.04mg/L ・ ジクロロメタン : 2.6 mg/L ・ 1,2-ジクロロエタン : 1.1 mg/L ・ シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.18mg/L ・ ベンゼン : 4.7 mg/L ・ 1,4-ジオキサン : 0.91mg/L	・ トリクロロエチレン : 0.14 mg/L ・ テトラクロロエチレン : 0.09 mg/L ・ ジクロロメタン : 7.5 mg/L ・ 1,2-ジクロロエタン : 1.2 mg/L ・ シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.66 mg/L ・ 1,1,2-トリクロロエタン : 0.059mg/L ・ ベンゼン : 5.1 mg/L ・ 1,4-ジオキサン : 0.45 mg/L	・ トリクロロエチレン : 1.0 mg/L ・ テトラクロロエチレン : 0.29 mg/L ・ ジクロロメタン : 2.8 mg/L ・ 1,2-ジクロロエタン : 1.2 mg/L ・ シス-1,2-ジクロロエチレン : 0.65 mg/L ・ 1,1,2-トリクロロエタン : 0.011mg/L ・ ベンゼン : 13 mg/L ・ 1,4-ジオキサン : 0.41 mg/L
廃棄物の区分	廃プラスチック類	汚泥	汚泥	汚泥	廃プラスチック類
備考	「廃プラスチック類」……合成高分子系化合物に係る固形状及び液状の全ての廃プラスチック類 「汚泥」……工場廃水等の処理後に残る泥状のもの及び各種製造業の製造工程において生ずる泥状のもの				

ドラム缶内容物の性状等一覧表（東側：固形物）

	U	T	S	R	Q
	固形物	固形物	固形物	固形物	固形物
色	灰 ・ 黄土	茶	濃茶	濃紺	オレンジ ・ 青
粘性	固体 + 液体（分離）	固体	高粘性	固体	高粘性
臭い	薬品臭	薬品臭 ・ 酸っぱい臭い	薬品臭 ・ 接着剤臭	薬品臭 ・ ペンキ臭	薬品臭 ・ 溶剤臭
内容物例					
主な成分 （定性分析結果）	芳香族化合物 （揮発性有機化合物（VOC：トルエン系）を含む）	・芳香族化合物 （揮発性有機化合物（VOC：キシレン系）を含む） ・軽質油類	芳香族化合物 （揮発性有機化合物（VOC：キシレン系）を含む）	フェノール系	・芳香族化合物 （揮発性有機化合物（VOC：ベンゼン系、トルエン系、キシレン系）を含む） ・軽質油類
分析結果 （検出された項目）	<ul style="list-style-type: none"> 鉛又はその化合物 : 0.14 mg/L ホリ塩化ビフェニル : 0.0010mg/L トリクロエチレン : 0.32 mg/L テトラクロエチレン : 0.19 mg/L ジクロメタン : 3.7 mg/L 四塩化炭素 : 0.28 mg/L 1,2-ジクロロエタン : 0.92 mg/L 1,1-ジクロロエチレン : 0.02 mg/L シス-1,2-ジクロロエチレン : 2.8 mg/L 1,1,2-トリクロロエタン : 0.046 mg/L 1,3-ジクロロプロペン : 0.005 mg/L ベンゼン : 14 mg/L 1,4-ジオキサン : 1.0 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> ベンゼン : 0.18mg/L 1,4-ジオキサン : 0.30mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> カドミウム又はその化合物 : 0.012mg/L 鉛又はその化合物 : 18 mg/L トリクロエチレン : 0.11 mg/L ジクロメタン : 11 mg/L 1,2-ジクロロエタン : 0.26 mg/L シス-1,2-ジクロロエチレン : 5.5 mg/L 1,1,2-トリクロロエタン : 0.016mg/L 1,3-ジクロロプロペン : 0.019mg/L ベンゼン : 1.1 mg/L 1,4-ジオキサン : 0.21 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛又はその化合物 : 0.08 mg/L ジクロメタン : 0.03 mg/L 1,2-ジクロロエタン : 0.049mg/L ベンゼン : 0.02 mg/L 	<ul style="list-style-type: none"> トリクロエチレン : 0.02mg/L テトラクロエチレン : 0.09mg/L ジクロメタン : 0.15mg/L 1,2-ジクロロエタン : 0.64mg/L シス-1,2-ジクロロエチレン : 1.0 mg/L ベンゼン : 0.71mg/L 1,4-ジオキサン : 0.05mg/L
廃棄物の区分	汚泥	廃プラスチック類	廃プラスチック類	廃プラスチック類	廃プラスチック類
備考	「廃プラスチック類」……合成高分子系化合物に係る固形状及び液状の全ての廃プラスチック類 「汚泥」……工場廃水等の処理後に残る泥状のもの及び各種製造業の製造工程において生ずる泥状のもの				